マニュアル環境とマニュアルの書き方

森　洋久
joshua@globalbase.org

2007-11-04 版

目 次

第 1 章　はじめに **5**
1.1 目的と概要 5
1.2 このマニュアルを読むために必要な知識 5
1.3 前提となるシステム用件 5
1.4 GLOBALBASE マニュアル環境の概念 5
1.5 マニュアル環境における基本的なディレクトリとファイル 5
1.6 マニュアルの基本的な形式 7
1.7 マニュアルに最低限求められること 8
1.8 XML オリジナルファイルのファイル名 9
1.9 文章記述用タグ 9

第 2 章　あたらしいマニュアルを一つ追加する手順 **10**
2.1 概要 10
2.2 この作業の前提となるシステム用件 10
2.3 マニュアルを書く 10
2.4 TeX 用 bib ファイルの編集 10
2.5 HTML マニュアルホームページへの追加 11
2.6 TOC ディレクトリへのエントリの追加 11
2.7 makefile へのエントリの追加 12
2.8 コンパイル 12
2.9 toc ファイルの CVS への追加 27
2.10 HTML および PDF の確認 28
2.11 HTML の公開 28
2.12 CVS チェックイン 28

第 3 章　既にあるマニュアルを編集する手順 **29**
3.1 概要 29
3.2 この作業の前提となるシステム用件 29
3.3 CVS のチェックアウト 29
3.4 マニュアルを編集する 29
3.5 コンパイル 29
3.6 HTML および PDF の確認 30
3.7 HTML の公開 30
3.8 CVS チェックイン 30

第 4 章　バグレポートの記述方法 (新たなバグレポートを追加する) **31**
4.1 概要 31
4.2 この作業の前提となる知識 31
4.3 この作業の前提となるシステム用件 31

4.4 バグレポートの構成 31
4.5 レポートコードの決定 31
4.6 バグレポートアイテムの追加 32
4.7 バグレポートアイテムの CVS への追加 32
4.8 バグレポート本体ファイルの更新 32
4.9 コンパイル 33
4.10 HTML および PDF の確認 33
4.11 HTML の公開 33
4.12 CVS チェックイン 34

第 5 章 バグレポートの記述方法 (バグレポートアイテムを更新する) 35
5.1 概要 35
5.2 この作業の前提となる知識 35
5.3 この作業の前提となるシステム用件 35
5.4 更新するバグレポートアイテムを決める 35
5.5 バグレポートアイテムの編集 35
5.6 バグ解決時の処理 36
5.7 コンパイル 36
5.8 HTML および PDF の確認 36
5.9 HTML の公開 36
5.10 CVS チェックイン 37

第 6 章 マニュアル文章に図や表を挿入する方法 38
6.1 概要 38
6.2 この作業の前提となるシステム用件 38
6.3 オリジナルイメージの準備 38
6.4 オリジナルデータがピクセルデータの場合 39
6.5 オリジナルデータが EPS データなどベクタデータの場合 39
6.6 新しいファイルの CVS への登録 39
6.7 マニュアルデータからの参照 39
6.8 コンパイル 40

第 7 章 mmake 時エラーリファレンス 41
7.1 概要 41
7.2 エラー 42
7.2.1 cannot nesting tag 42
7.2.2 tag is required 43
7.2.3 attribute is required 44
7.2.4 tag with specified attribute is required 45
7.2.5 you can use only one function type in the reference-man element 46
7.2.6 invalid reference-man 47

第 8 章 マニュアル XML データ形式 48
8.1 概要 48
8.2 XML 要素 53
8.2.1 manual 53
8.2.2 history 54

8.2.3 target . . . 55
8.2.4 human-requirement . . . 56
8.2.5 system-requirement . . . 57
8.2.6 author . . . 58
8.2.7 section . . . 59
8.2.8 sequence-man . . . 60
8.2.9 abstract . . . 61
8.2.10 step . . . 62
8.2.11 topic . . . 63
8.2.12 reference-man . . . 64
8.2.13 function-xml . . . 65
8.2.14 function-xml-err . . . 66
8.2.15 function-xl . . . 67
8.2.16 function-script . . . 68
8.2.17 prototype . . . 69
8.2.18 agent . . . 70
8.2.19 path . . . 71
8.2.20 arguments . . . 72
8.2.21 attributes . . . 73
8.2.22 explain . . . 74
8.2.23 bugs . . . 75
8.2.24 reference . . . 76
8.2.25 code-information . . . 77
8.2.26 environment . . . 78
8.2.27 evaltype . . . 79
8.2.28 return . . . 80
8.2.29 return . . . 81
8.2.30 tracking . . . 82
8.2.31 item . . . 83
8.2.32 status . . . 84
8.2.33 first-report . . . 86
8.2.34 workaround . . . 87
8.2.35 final-report . . . 88
8.2.36 report . . . 89

第 9 章　マニュアル XML 文章記述タグ　97
9.1 概要 . . . 97
9.2 XML 要素 . . . 98
9.2.1 br . . . 98
9.2.2 ref . . . 99
9.2.3 ol . . . 101
9.2.4 ul . . . 102
9.2.5 il . . . 103
9.2.6 b . . . 104
9.2.7 it . . . 105
9.2.8 img . . . 106

9.2.9 table 107
9.2.10 tr 108
9.2.11 td 109
9.2.12 example 110

第 10 章 マニュアル環境のスクリプト 111
10.1 概要 111
10.2 このリファレンスのために必要な知識 111
10.3 このリファレンスで前提としているシステム用件 111
10.4 スクリプト 112
10.4.1 mmake 112
10.4.2 make.html.sh 113

第1章　はじめに

1.1　目的と概要

GLOBALBASE に関連したマニュアルを記述するために用意された XML 形式について説明します。この形式で記述すると、GLOBALBASE ホームページのための HTML 文書と、印刷可能な PDF 文書が同時に作成することが出来ます。

1.2　このマニュアルを読むために必要な知識

マニュアル環境は POSIX 系のコマンドラインから利用するので、シェルの簡単な操作が出来ること。

1.3　前提となるシステム用件

本スクリプト群は、GLOBALBASE の開発環境がそろっていることが前提条件です。sourceforge.jp の CVS からコミットしたワークエリアに対する操作を説明しています。sourceforge.jp からの CVS の取得方法等については、「GLOBALBASE の開発 [**?**]」を参照してください。

1.4　GLOBALBASE マニュアル環境の概念

GLOBALBASE では統一的に HTML 文書と PDF を作成するために、マニュアルを XML で記述し、そのオリジナルデータから HTML 文書のマニュアルと PDF のマニュアルを同時に作るための環境を用意しています。この処理環境をマニュアル環境と読んでいる。GLOBALBASE のマニュアル環境は 図 1.1 のようになっています。

この図によれば、XML 文書、および、bibtex 用の reference.bib を記述すれば、自動的に HTML 文書、および、PDF 文章が生成出来るしくみです。

この環境では exl,platex,dvipdfmx といったツールを使いますが、これらを直接実行することはありません。GLOBALBASE の開発用メイクコマンド、 mmake (10.4.1 節) を実行するだけで、すべてのコマンドが適切に呼び出され、ディレクトリ env/doc/xml/man の下に HTML 文書と PDF 文書が生成されます。

これらのコマンドは様々なレベルでお互いのマニュアル、マニュアルの項目、図表などの参照関係をチェックしデータベース化しています。それらは work/xml/*.xltoc や、work/xml/+.toc ファイルに保存されています。こういった参照情報により、複雑な参照関係、ナンバリング等を自動的におこないます。

1.5　マニュアル環境における基本的なディレクトリとファイル

表 1.1 はマニュアル作成のためのマニュアル環境のディレクトリ構造です。これは、ver.B.b11 以降の GLOBALBASE のソースコードをダウンロードするか、あるいは、CVS をチェックアウトすると、その中にあります。さらにマニュアル環境は

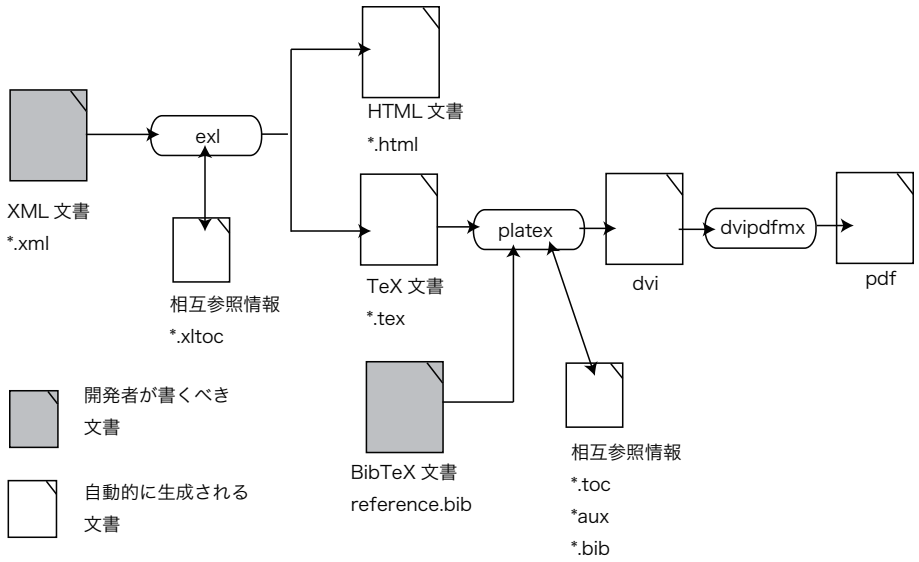

図 1.1: マニュアル環境

表 1.1: ディレクトリ構成

gbs/doc/xml	ディレクトリ	マニュアル環境のディレクトリ
gbs/doc/xml/makefile	ファイル	mmake 用 makefile
gbs/doc/xml/make.html.sh	ファイル	公開用 html ディレクトリの作成
gbs/doc/xml/src/xml	ディレクトリ	オリジナル XML ファイルの配置場所
gbs/doc/xml/src/images	ディレクトリ	オリジナルイメージファイルの配置場所
gbs/doc/xml/src/tex	ディレクトリ	オリジナル TeX (BiB) ファイルの配置場所
gbs/doc/xml/src/html	ディレクトリ	オリジナル HTML ファイルの配置場所
gbs/doc/xml/utils	ディレクトリ	環境コンパイル用各種ファイル
gbs/doc/xml/work/xml	ディレクトリ	中間ファイルの配置場所
gbs/doc/xml/man	ディレクトリ	最終マニュアルドキュメント配置場所
gbs/doc/xml/man/html	ディレクトリ	HTML 文書の生成場所
gbs/doc/xml/man/pdf	ディレクトリ	PDF 文書の生成場所

1. GLOBALBASE の開発環境に含まれる mmake (10.4.1 節) の機能

   「GLOBALBASE の開発 [?]」を参照して開発環境をインストールしてください。

2. LANDSCAPE サーバにある exl エージェント [UNDEF REF (exl)]

   「LANDSCAPE スタートアップ・マニュアル [1]」を参照して LANDSCAPE サーバをインストールしてください。サーバを動作指せる必要はありません。

3. platex

   TeX のホームページを参照してインストールしてください。

を利用して構築されています。従って、この 3 つの環境を構築する必要があります。

1.6 マニュアルの基本的な形式

マニュアルを一般的なワードプロセッサを使わず XML で書く理由には、自動変換可能にするという目的の他に、XML のタグにより一定の型を与え、余分なことが出来ないようにすることにより、すべてのマニュアルが統一的なフォーマットになるように方向付ける目的があります。GLOBALBASE の XML 文書のマニュアルでは、マニュアルの記述をいくつかに分類し、体系化したものをタグ化してあります。 まず、どのマニュアルにも必ず求められる事項として、

1. 目的と概要 (target)
2. 人的要求事項 (human-requirement)「このマニュアルを読むために必要な知識」
3. システム用件 (machine-requirement)「前提となるシステム用件」
4. 履歴 (history)

があります。目的と概要はこのマニュアルが目的としてるところを簡潔に記述した物です。人的要求事項は、このマニュアルを読む人が前提として持っているべき知識を簡単に説明した物です。また、システム用件は、マニュアルを読む段階で備わっているべきソフトウエアやハードウエアが記載されています。もしこの記述に漏れた物があれば、マニュアルを読む人は、あらかじめ必要なソフトウエアをインストールしたり、あるいは知識をつけるべく他のマニュアルや文献を読む必要があります。最後に、マニュアルがいつどのように加筆訂正されたかについて簡単にまとめられた物が、履歴です。目的と概要、人的要求事項とシステム用件は、マニュアル環境によってマニュアルの冒頭にくるように制御されます。一方、履歴はマニュアルの末尾にくるように制御されます。

これに続き、説明事項 (section) が続き、そのあとにマニュアルの本文が続きます。マニュアルの本文部分では、そのマニュアルの目的とすることによっていくつかの特徴あるパターン、形式が存在します。現在用意されている基本的なパターンは現在以下の３つです。

1. **シーケンスパターン** (sequence-man)

   主にインストールや数々の操作の手順を記述するパターンを与えるものです。その他にも、概念の順序立てた説明などにも用いられます。一つ一つのステップを記述するタグと、「注意点」や「参考」などトピックを与えるタグが用意されています。

2. **リファレンスパターン** (reference-man)

   いわゆるリファレンスマニュアルを作成するときのパターンです。リファレンスマニュアルとはひとまとまりの複数の機能や概念を列挙したもので。個別の機能の間には順序関係などは存在しません。そのかわり、各機能を特徴づける、「プロトタイプ」「引数」「説明」などの項目はどの機能にも記述されている必要があります。ある機能では「引数」の項目はあるが別の機能では「引数」について説明されていない、といったことはあってはなりません。

   一方で、エラーメッセージのリファレンスマニュアルと、ライブラリ関数のリファレンスマニュアルでは必要な項目が異なります。そのため、何種類かのリファレンス項目セットが用意されています。

3. **トラッキングパターン** (tracking-man)

   例えば、バグレポートはこのパターンに属します。初期報告があり、これに対する最初の所見、経過報告、最終報告、といった一連の report の集合体が一つのアイテムとなり、このアイテムが複数集まったのが一つのトラックです。バグレポートは一番複雑なトラッキングですが、Q and A も、一番単な、つまり「初期報告」= Q と「最終報告」= A しかないトラッキングパターンと考えられます。

   現在サポートされているトラッキンバターンは、バグレポート (bugs)、新機能解説 (function)、チューニング (tuning) および、Frequency Ask of Question (faq) です。

これらのパターンは、一つのマニュアルの中に、あっても無くてもよく、または、同じパターンが複数存在してもかまいません。異なるパターンが存在していてもかまいません。しかし、 **これ以外のパターンでマニュアルを記述することは認められません。** もし、現在のこのパターンではどうしても記述出来ないパターンが発見された場合は、そのパターンの必要性を GLOBALBASE コミュニティーでよく議論し、新たにパターンを加える作業が必要です。 なお現在、これらの章立ての方法については、もう少しフレキシブルに変更出来る機能を準備する必要があるかと考えています。例えば複数のシーケンスパターンをあわせて一つの章にするか、あるいは、現在のように別々の章にするかといった機能です。

また、異なるパターンが一つのマニュアルに混在する場合は、パターンの出現順番が、上記箇条書きの順番にマニュアル環境によって制御されます。こうすることによってマニュアルのどこに何が書かれているか、読者に容易に予想出来る読みやすいマニュアルが作成可能となります。

1.7 マニュアルに最低限求められること

一冊のマニュアルはシステムについての使い方と機能の説明です。使い方は、一つあるいは複数の使う目的を達成するため、それぞれの目的ごとに手順を示すものです。従って、これらにはシーケンスパターンの章を割り当てます。一方、機能の説明は、そのシステムの持っている機能をすべて列挙し説明するものです。これをリファレスパターンで記述します。機能の説明のためには、機能そのもものに目が奪われがちですが、機能実現に必要なデータ構造、および機能の利用時に発生するエラーの情報が必要です。つまり、データ構造およびエラーの種類および説明もリファレンスパターンで記述します。マニュアルには以下の説明が最低限収まっている必要があります。

1. 目的別手順の説明　シーケンスパターンを使う。
2. 機能の説明　リファレンスパターンを使う。
3. エラーの説明　リファレンスパターンを使う。
4. データ構造の説明　リファレンスパターンを使う。

また、GUI の説明においても、これに従うべきです。GUI の操作の仕方は、1. になります。一方、システムが用意するウィンドウやダイアログについて、リファレンスを作成すべきです。また、なんらかの GUI 操作において発生するエラーダイアログについてはエラーのリファレンスが必要です。

GUI はデータ構造に直接触れないで操作出来るというところがメリットでありますから、GUI の場合データ構造に関するリファレンスはあまり利用しないかもしれません。しかしながら、セーブされるファイルがどんな形式かなど説明しておく必要があります。

リファレンスパターンにおいて、説明対象ごとに若干項目が異なります。その項目セットとして以下のものが用意されています。

- function-xl

  XL 関数の機能説明の項目セット

- function-script

  スクリプトの機能説明の項目セット

- function-xml

  XML データ構造を説明するための項目セット

- function-xml-err

  エラー特に XL などで発生する XML パターンのエラーを説明する盲目セット。しかし、XL や XML に限らず、エラーに関してはこの盲目セットが利用出来る見通しである。

一方、以下の項目セットは現在（ver.B.b11.02 時点) ではサポート計画中であるが未サポートです。

- function-window

  ウィンドウの説明項目セット

以上、基本的に最低限必要なパターンを説明しましたが、これに説明を助ける補足情報として Q and A や FAQ、バグ情報などをトラッキングパターンで追加して行くことも可能です。

1.8 XML オリジナルファイルのファイル名

XML オリジナルのファイルは ver.B.XX.XX/doc/xml/src（gbs/doc/xml/src）の中にはいっています。日本語のマニュアルに関しては、ja-**.xml というファイル名になっています。最初の ja は日本語を表します。en-は英語、cn-は中国語ということになっています。基本的に ISO の国名記述の標準に順処します。

しかしながら、現在のところは、日本語のマニュアル環境しか準備していません。追って、英語等を準備して行く予定です。

1.9 文章記述用タグ

マニュアルを XML で記述する場合、改行やイタリック体、ボールド体など基本的な文章制御の方法が必要です。GLOBALBASE のマニュアル環境では、HTML の基本的なタグをこれに踏襲しました。たとえば、改行は、
 タグを使います。イタリックは、「<it>italic</it>」と記述すれば、「 *italic* 」と表示されます。その他にも、アイテマイズ、表、図があります。しかし PDF を HTML を同時に出力することを目的としているため、HTML のタグとは属性の与え方などが微妙に異なります。これらについて詳しくは 9 節を参照してください。図の挿入のしかた、あるいは、表の挿入の仕方等、よく使うと思われるタグについては別の章立てで手順の説明を行っています。

第2章　あたらしいマニュアルを一つ追加する手順

2.1　概要

マニュアルを新しく一冊追加するための手順を説明します。

2.2　この作業の前提となるシステム用件

本手順は、ソースコードの開発環境をそろえていることを前提としています。以下のファイルの保存場所などは、sourceforge.jp の CVS からコミットしたワークエリアに対する操作を説明しています。sourceforge.jp からの CVS の取得方法等については、「GLOBALBASE の開発 [?]」を参照してください。

2.3　マニュアルを書く

まずは、「マニュアル環境とマニュアルの書き方 [2]」に従ってマニュアルの XML ファイルを作成します。マニュアルの XML ファイルは、gbs/doc/xml/templates/ja-standard.xml や、gbs/doc/xml/templates/en-standard.xml をコピーし編集するとわかりやすいです。編集したファイルは、gbs/doc/xml/src/xml へ適切な名前をつけて保存します。保存したファイルに対しては、CVS への追加操作をします。

```
% cd gbs/doc/xml/src/xml
% cvs add ja-**.xml
```

ja-**.xml は保存したファイル名です。

> **[注意]**
> 新しいマニュアルを作ったら必ず最初の history を追加しましょう。

なお、図表の編集は、 6 節参照してください。

2.4　TeX 用 bib ファイルの編集

次に、PDF 文書を生成するために必要な BiBTeX のデータベースに追加したマニュアルのデータを追加します。このデータベースファイルは、gbs/deoc/xml/src/tex/ja-reference.bib です。その中に以下のような一エントリーを追加します。

```
@book{gb-manuals-writing-method,
  title =  "マニュアル環境とマニュアルの書き方",
  author = "森　洋久",
```

```
  publisher = "GLOBALBASE PROJECT",
  year = 2006,
}
```

最初の、gb-manuals-writing-method は、マニュアルの XML ファイルの冒頭にある

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<manual
    code="gb-manuals-writing-method"
    title="マニュアル環境とマニュアルの書き方"

    tocloader="src/xml/ja-xltoc.xl">
....
```

code 属性で指定されたコードを書きます。この書式については TeX のマニュアルを参照してください。

2.5 HTML マニュアルホームページへの追加

HTML マニュアルを更新、公開した場合に、新しいマニュアルは HTML マニュアルホームページのソースコードへ追加します。HTML マニュアルのホームページのソースコードは、gbs/doc/xml/src/html/ja-index.html です。この中の適切な箇所に一行、新しいマニュアルへのリンクを追加します。リンクは、[ファイル名の幹名]/index.html となります。このマニュアルであれば、

```
ja-manuals/index.html
```

となります。従って、

```
<A HREF="ja-manuals/index.html">マニュアル環境とマニュアルの書き方</A>
```

というリンクを追加します。

2.6 TOC ディレクトリへのエントリの追加

gbs/doc/xml/src/xml/ja-xltoc.xl というファイルがあります。英語マニュアルの場合であれば、en-xltoc.xl というファイルです。ここに新しいマニュアル用の一行を追加します。このマニュアルであれば、work/xml/ja-manuals.xltoc という行がそれにあたります。

> **[注意]**
> このファイルは行単位で読み込まれ、改行のみの行があると mmake (10.4.1 節) 時に不要なワーニングが発生します。特にコンパイル結果には影響はありませんが、改行のみの行は極力削除するようにしてください。

2.7 makefile へのエントリの追加

新しいマニュアル用に makefile (gbs/doc/xml/makefile) にも@ make から始まる一つのエントリーを加えます。このマニュアル用のエントリは以下の通り。

```
@ make file man/pdf/ja-manuals.pdf from \
    file work/xml ja-manuals.tex
.set MAN    ja-manuals

.(neq,${PDF},on)    do touch man/pdf/${MAN}.pdf
.(eq,${PDF},off)    finish
    cd work/xml; \
    ${TEX} ${MAN}.tex; \
    ${BIB} ${MAN}; \
    ${TEX} ${MAN}.tex; \
    ${TEX} ${MAN}.tex; \
    dvipdfmx ${MAN}.dvi; \
    mv ${MAN}.pdf ../../man/pdf/${MAN}.pdf
```

上記ファイル名幹のある、最初の三行部分が変更対象です。ja-manuals の部分を新しいファイルの幹名にします。

2.8 コンパイル

マニュアルのコンパイルを実行します。

```
% cd gbs/doc/xml
% mmake
```

もし TeX の環境がインストールされていない場合は、

```
% cd gbs/doc/xml
% mmake PDF=off
```

とすることによって TeX の環境を使わないようにすることができます。そのかわり PDF は空のファイルが生成されます。 エラーが発生した場合は、エラーに対処してください。発生エラーのリファレンスは、7 節です。

以下に実行の一例を挙げます。(長いです。)

```
[PowerBook19:gbs/doc/xml] joshua% mmake
mmake
uname : Darwin
```

```
source:src
work:work
tree
warning work/xml/ja-bugs-report.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-cosmos.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-gbview.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-guide.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-httpgateway.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-landscape.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-localbase-ui.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-localbase.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-manuals.xml.ap
No such file or directory
        exl utils/xl/manual.xl - - / src/xml/ja-manuals.xml work/xml/ja-manuals.tex
<Result> 1 ()</Result>
Preparing the System....
Loading the Source Code src/xml/ja-manuals.xml....
Merging Input File....
Checking the reference relations Phase-1....
Checking the reference relations Phase-2....
Consistent Checking and Generate Regular Format.....
<Result> 3 ()</Result>
Output the HTML directory man/html/ja-manuals....
<Result> 4 ()</Result>
Output the Latex file work/xml/ja-manuals.tex....
<Result> 5 ()</Result>
Save TOC.....
<Result> 12 ()</Result>
<Result> 14 ()</Result>
<Result> 38 ()</Result>
# stop
ACTIVE
warning work/xml/ja-xl.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-xlsv.xml.ap
No such file or directory
DO line=43
        cd work/xml; platex ja-manuals.tex; jbibtex ja-manuals; platex ja-manuals.tex; platex ja
```

```
This is pTeX, Version 3.141592-p3.1.8 (sjis) (Web2C 7.5.4)
(./ja-manuals.tex
pLaTeX2e <2005/01/04>+0 (based on LaTeX2e <2003/12/01> patch level 0)
(/usr/local/share/texmf/ptex/platex/base/jreport.cls
Document Class: jreport 2002/04/09 v1.4 Standard pLaTeX class
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/base/fleqn.clo)
(/usr/local/share/texmf/ptex/platex/base/jsize10.clo))
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/graphicx.sty
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/keyval.sty)
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/graphics.sty
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/trig.sty)
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/graphics.cfg)
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/dvips.def)))
(../../utils/tex/input.in) (./ja-manuals.aux

LaTeX Warning: Label ‘fig-manual-function-xl-web2’ multiply defined.


LaTeX Warning: Label ‘____c62’ multiply defined.


LaTeX Warning: Label ‘____c63’ multiply defined.

) [1] (./ja-manuals.toc [1] [2] [3]) [4]
?? 1 ??
<../../src/images//manual/environment.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.


LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

[5] [6] [7] (/usr/local/share/texmf/tex/latex/base/omscmr.fd) [8]

LaTeX Font Warning: Font shape ‘JT1/mc/m/it’ undefined
(Font)              using ‘JT1/mc/m/n’ instead on input line 210.


LaTeX Font Warning: Font shape ‘JY1/mc/m/it’ undefined
(Font)              using ‘JY1/mc/m/n’ instead on input line 210.

[9]
?? 2 ??

LaTeX Warning: Citation ‘gb-manuals-writing-method’ on page 10 undefined on inp
ut line 232.
```

```
[10] [11]

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

[12]
Overfull \hbox (51.28922pt too wide) in paragraph at lines 419--420
[]\JY1/mc/m/n/10 ?????????m?F?????B ?f ?B ???N?g???A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/do
c/xml/man/pdf \JY1/mc/m/n/10 ???? \OT1/cmr/m/n/10 PDF \JY1/mc/m/n/10 ?t ?@ ?C??
????????B \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/man/html

Underfull \hbox (badness 6559) in paragraph at lines 437--438
[]\OT1/cmr/m/n/10 GLOBALBASE \JY1/mc/m/n/10 ?????}?j ?? ?A???y ?[?W?? ?A \OT1
/cmr/m/n/10 http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-
[13] [14]
?? 3 ??

LaTeX Warning: Citation ‘gb-manuals-writing-method’ on page 15 undefined on inp
ut line 504.


Overfull \hbox (51.28922pt too wide) in paragraph at lines 526--527
[]\JY1/mc/m/n/10 ?????????m?F?????B ?f ?B ???N?g???A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/do
c/xml/man/pdf \JY1/mc/m/n/10 ???? \OT1/cmr/m/n/10 PDF \JY1/mc/m/n/10 ?t ?@ ?C??
????????B \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/man/html
[15]
Underfull \hbox (badness 6559) in paragraph at lines 544--545
[]\OT1/cmr/m/n/10 GLOBALBASE \JY1/mc/m/n/10 ?????}?j ?? ?A???y ?[?W?? ?A \OT1
/cmr/m/n/10 http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-
[16]
?? 4 ??
[17] [18]
Overfull \hbox (51.28922pt too wide) in paragraph at lines 704--705
[]\JY1/mc/m/n/10 ?????????m?F?????B ?f ?B ???N?g???A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/do
c/xml/man/pdf \JY1/mc/m/n/10 ???? \OT1/cmr/m/n/10 PDF \JY1/mc/m/n/10 ?t ?@ ?C??
????????B \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/man/html

Underfull \hbox (badness 6559) in paragraph at lines 722--723
[]\OT1/cmr/m/n/10 GLOBALBASE \JY1/mc/m/n/10 ?????}?j ?? ?A???y ?[?W?? ?A \OT1
/cmr/m/n/10 http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-
[19] [20]
?? 5 ??

Overfull \hbox (1.31525pt too wide) in paragraph at lines 783--784
[]\JY1/mc/m/n/10 ?o?O???| ?[?g?R ?[?h????W????A?C?e???t ?@ ?C????????
?B ??{?I?? ?A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/src/xml/bugs-
```

```
[21]
Overfull \hbox (51.28922pt too wide) in paragraph at lines 850--851
[]\JY1/mc/m/n/10 ?????????m?F?????B ?f ?B ???N?g???A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/do
c/xml/man/pdf \JY1/mc/m/n/10 ???? \OT1/cmr/m/n/10 PDF \JY1/mc/m/n/10 ?t ?@ ?C??
????????B \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/man/html
[22]
Underfull \hbox (badness 6559) in paragraph at lines 868--869
[]\OT1/cmr/m/n/10 GLOBALBASE \JY1/mc/m/n/10 ?????}?j ?? ?A???y ?[?W?? ?A \OT1
/cmr/m/n/10 http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-
[23]
?? 6 ??
[24]
Overfull \hbox (13.77843pt too wide) in paragraph at lines 1001--1002
\OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/src/images \JY1/mc/m/n/10 ????Q????B ??
????????\OT1/cmr/m/n/10 "/"\JY1/mc/m/n/10 ???K?v???B ??? ?A \OT1/cmr/m/n/1
0 PDF \JY1/mc/m/n/10 ?? ?A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/src
[25] [26]
?? 7 ??
[27] [28] [29] [30] [31] [32] [33]
?? 8 ??
[34] [35] [36]

LaTeX Warning: Reference ‘gb-manuals-manual--reference-man--function-script’ on
 page 37 undefined on input line 1513.


Overfull \hbox (1.72684pt too wide) in paragraph at lines 1531--1533
[]\OT1/cmr/m/n/10 /manual/reference-man/function-script/ re-turn [UN-DEF REF (g
b-manuals-manual--reference-man--
[37] [38]
Overfull \hbox (0.40884pt too wide) in paragraph at lines 1615--1616
[]\OT1/cmr/m/n/10 pdf-section-divide  [\JY1/mc/m/n/10 ?C??\OT1/cmr/m/n/10 ]  \J
Y1/mc/m/n/10 ?u\OT1/cmr/m/n/10 xl(standard) \JY1/mc/m/n/10 ?G ?[?W ?F ???g ?E
???t ?@ ?????X ?E ?}?j ?? ?A?? ?v  \OT1/cmr/m/n/10 [[]] \JY1/mc/m/n/10 ?? ?u\OT
1/cmr/m/n/10 XLT[]STRING(\JY1/mc/m/n/10 ??
[39] [40] [41] [42] [43] [44] [45] [46] [47] [48] [49]

LaTeX Warning: Reference ‘gb-manuals-manual--reference-man--function-script’ on
 page 50 undefined on input line 2136.

[50] <../../src/images//manual/example-function-xml.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

<../../src/images//manual/example-function-xml-web.eps>
```

```
LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

[51] <../../src/images//manual/example-function-xml-err.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

<../../src/images//manual/example-function-xml-err-web.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

[52] <../../src/images//manual/example-function-xl.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

<../../src/images//manual/example-function-xl-web1.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

<../../src/images//manual/example-function-xl-web2.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

[53] [54]

LaTeX Warning: Reference ‘gb-manuals-manual--reference-man--function-script’ on
 page 55 undefined on input line 2543.

[55] [56] [57]

LaTeX Warning: Reference ‘gb-manuals-manual--reference-man--function-script’ on
 page 58 undefined on input line 2681.

[58] [59]

LaTeX Warning: Reference ‘gb-manuals-manual--reference-man--function-script’ on
 page 60 undefined on input line 2775.

[60]

LaTeX Warning: Reference ‘gb-manuals-manual--reference-man--function-script’ on
 page 61 undefined on input line 2823.

[61]

LaTeX Warning: Reference ‘gb-manuals-manual--reference-man--function-script’ on
 page 62 undefined on input line 2871.
```

```
[62] [63]

LaTeX Warning: Reference ‘gb-manuals-manual--reference-man--function-script’ on
 page 64 undefined on input line 2957.

[64] [65]

LaTeX Warning: Reference ‘gb-manuals-manual--reference-man--function-script’ on
 page 66 undefined on input line 3045.

[66]

LaTeX Warning: Reference ‘gb-manuals-manual--reference-man--function-script’ on
 page 67 undefined on input line 3089.

[67] [68] [69] [70] [71] [72] [73] [74] [75] [76] [77] [78] [79] [80] [81]
?? 9 ??
[82] [83] [84] [85] [86] [87] [88] [89] [90] [91] [92] [93] [94] [95]
?? 10 ??
[96] [97] [98] (./ja-manuals.bbl) [99] [100] (./ja-manuals.aux)

LaTeX Font Warning: Some font shapes were not available, defaults substituted.


LaTeX Warning: There were undefined references.


LaTeX Warning: There were multiply-defined labels.

 )
(see the transcript file for additional information)
Output written on ja-manuals.dvi (101 pages, 206056 bytes).
Transcript written on ja-manuals.log.
This is JBibTeX, Version 0.99c-j0.33 (Web2C 7.5.4)
The top-level auxiliary file: ja-manuals.aux
The style file: junsrt.bst
Database file #1: ../../src/tex/reference.bib
Warning--I didn’t find a database entry for "gb-manuals-writing-method"
(There was 1 warning)
This is pTeX, Version 3.141592-p3.1.8 (sjis) (Web2C 7.5.4)
(./ja-manuals.tex
pLaTeX2e <2005/01/04>+0 (based on LaTeX2e <2003/12/01> patch level 0)
(/usr/local/share/texmf/ptex/platex/base/jreport.cls
Document Class: jreport 2002/04/09 v1.4 Standard pLaTeX class
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/base/fleqn.clo)
```

```
(/usr/local/share/texmf/ptex/platex/base/jsize10.clo))
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/graphicx.sty
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/keyval.sty)
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/graphics.sty
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/trig.sty)
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/graphics.cfg)
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/dvips.def)))
(../../utils/tex/input.in) (./ja-manuals.aux

LaTeX Warning: Label ‘fig-manual-function-xl-web2’ multiply defined.


LaTeX Warning: Label ‘____c62’ multiply defined.


LaTeX Warning: Label ‘____c63’ multiply defined.

) [1] (./ja-manuals.toc [1] [2] [3]) [4]
?? 1 ??
<../../src/images//manual/environment.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.


LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

[5] [6] [7] (/usr/local/share/texmf/tex/latex/base/omscmr.fd) [8]

LaTeX Font Warning: Font shape ‘JT1/mc/m/it’ undefined
(Font)              using ‘JT1/mc/m/n’ instead on input line 210.


LaTeX Font Warning: Font shape ‘JY1/mc/m/it’ undefined
(Font)              using ‘JY1/mc/m/n’ instead on input line 210.

[9]
?? 2 ??

LaTeX Warning: Citation ‘gb-manuals-writing-method’ on page 10 undefined on inp
ut line 232.

[10] [11]

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

[12]
```

```
Overfull \hbox (51.28922pt too wide) in paragraph at lines 419--420
[]\JY1/mc/m/n/10 ?????????m?F?????B ?f ?B ???N?g???A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/do
c/xml/man/pdf \JY1/mc/m/n/10 ???? \OT1/cmr/m/n/10 PDF \JY1/mc/m/n/10 ?t ?@ ?C??
????????B \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/man/html

Underfull \hbox (badness 6559) in paragraph at lines 437--438
[]\OT1/cmr/m/n/10 GLOBALBASE \JY1/mc/m/n/10 ?????}?j ?? ?A???y ?[?W?? ?A \OT1
/cmr/m/n/10 http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-
[13] [14]
?? 3 ??

LaTeX Warning: Citation ‘gb-manuals-writing-method’ on page 15 undefined on inp
ut line 504.


Overfull \hbox (51.28922pt too wide) in paragraph at lines 526--527
[]\JY1/mc/m/n/10 ?????????m?F?????B ?f ?B ???N?g???A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/do
c/xml/man/pdf \JY1/mc/m/n/10 ???? \OT1/cmr/m/n/10 PDF \JY1/mc/m/n/10 ?t ?@ ?C??
????????B \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/man/html
[15]
Underfull \hbox (badness 6559) in paragraph at lines 544--545
[]\OT1/cmr/m/n/10 GLOBALBASE \JY1/mc/m/n/10 ?????}?j ?? ?A???y ?[?W?? ?A \OT1
/cmr/m/n/10 http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-
[16]
?? 4 ??
[17] [18]
Overfull \hbox (51.28922pt too wide) in paragraph at lines 704--705
[]\JY1/mc/m/n/10 ?????????m?F?????B ?f ?B ???N?g???A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/do
c/xml/man/pdf \JY1/mc/m/n/10 ???? \OT1/cmr/m/n/10 PDF \JY1/mc/m/n/10 ?t ?@ ?C??
????????B \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/man/html

Underfull \hbox (badness 6559) in paragraph at lines 722--723
[]\OT1/cmr/m/n/10 GLOBALBASE \JY1/mc/m/n/10 ?????}?j ?? ?A???y ?[?W?? ?A \OT1
/cmr/m/n/10 http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-
[19] [20]
?? 5 ??

Overfull \hbox (1.31525pt too wide) in paragraph at lines 783--784
[]\JY1/mc/m/n/10 ?o?O???| ?[?g?R ?[?h????W????A?C?e???t ?@ ?C????????
?B ??{?I?? ?A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/src/xml/bugs-
[21]
Overfull \hbox (51.28922pt too wide) in paragraph at lines 850--851
[]\JY1/mc/m/n/10 ?????????m?F?????B ?f ?B ???N?g???A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/do
c/xml/man/pdf \JY1/mc/m/n/10 ???? \OT1/cmr/m/n/10 PDF \JY1/mc/m/n/10 ?t ?@ ?C??
????????B \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/man/html
[22]
```

```
Underfull \hbox (badness 6559) in paragraph at lines 868--869
[]\OT1/cmr/m/n/10 GLOBALBASE \JY1/mc/m/n/10 ?????}?j ?? ?A???y ?[?W?? ?A \OT1
/cmr/m/n/10 http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-
[23]
?? 6 ??
[24]
Overfull \hbox (13.77843pt too wide) in paragraph at lines 1001--1002
\OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/src/images \JY1/mc/m/n/10 ????Q????B ??
????????\OT1/cmr/m/n/10 "/"\JY1/mc/m/n/10 ???K?v???B ??? ?A \OT1/cmr/m/n/1
0 PDF \JY1/mc/m/n/10 ?? ?A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/src
[25] [26]
?? 7 ??
[27] [28] [29] [30] [31] [32] [33]
?? 8 ??
[34] [35] [36]
Overfull \hbox (1.72684pt too wide) in paragraph at lines 1531--1533
[]\OT1/cmr/m/n/10 /manual/reference-man/function-script/ re-turn [UN-DEF REF (g
b-manuals-manual--reference-man--
[37] [38]
Overfull \hbox (0.40884pt too wide) in paragraph at lines 1615--1616
[]\OT1/cmr/m/n/10 pdf-section-divide  [\JY1/mc/m/n/10 ?C??\OT1/cmr/m/n/10 ]  \J
Y1/mc/m/n/10 ?u\OT1/cmr/m/n/10 xl(standard) \JY1/mc/m/n/10 ?G ?[?W ?F ???g ?E
???t ?@ ?????X ?E ?}?j ?? ?A?? ?v  \OT1/cmr/m/n/10 [[]] \JY1/mc/m/n/10 ?? ?u\OT
1/cmr/m/n/10 XLT[]STRING(\JY1/mc/m/n/10 ??
[39] [40] [41] [42] [43] [44] [45] [46] [47] [48] [49] [50]
<../../src/images//manual/example-function-xml.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

<../../src/images//manual/example-function-xml-web.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

[51] <../../src/images//manual/example-function-xml-err.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

<../../src/images//manual/example-function-xml-err-web.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

[52] <../../src/images//manual/example-function-xl.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

<../../src/images//manual/example-function-xl-web1.eps>
```

```
LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

<../../src/images//manual/example-function-xl-web2.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

[53] [54] [55] [56] [57] [58] [59] [60] [61] [62] [63] [64] [65] [66] [67]
[68] [69] [70] [71] [72] [73] [74] [75] [76] [77] [78] [79] [80] [81]
?? 9 ??
[82] [83] [84] [85] [86] [87] [88] [89] [90] [91] [92] [93] [94] [95]
?? 10 ??
[96] [97] [98] (./ja-manuals.bbl) [99] [100] (./ja-manuals.aux)

LaTeX Font Warning: Some font shapes were not available, defaults substituted.


LaTeX Warning: There were undefined references.


LaTeX Warning: There were multiply-defined labels.

 )
(see the transcript file for additional information)
Output written on ja-manuals.dvi (101 pages, 206420 bytes).
Transcript written on ja-manuals.log.
This is pTeX, Version 3.141592-p3.1.8 (sjis) (Web2C 7.5.4)
(./ja-manuals.tex
pLaTeX2e <2005/01/04>+0 (based on LaTeX2e <2003/12/01> patch level 0)
(/usr/local/share/texmf/ptex/platex/base/jreport.cls
Document Class: jreport 2002/04/09 v1.4 Standard pLaTeX class
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/base/fleqn.clo)
(/usr/local/share/texmf/ptex/platex/base/jsize10.clo))
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/graphicx.sty
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/keyval.sty)
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/graphics.sty
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/trig.sty)
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/graphics.cfg)
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/graphics/dvips.def)))
(../../utils/tex/input.in) (./ja-manuals.aux

LaTeX Warning: Label ‘fig-manual-function-xl-web2’ multiply defined.


LaTeX Warning: Label ‘____c62’ multiply defined.
```

```
LaTeX Warning: Label ‘____c63’ multiply defined.

) [1] (./ja-manuals.toc [1] [2] [3]) [4]
?? 1 ??
<../../src/images//manual/environment.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.


LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

[5] [6] [7] (/usr/local/share/texmf/tex/latex/base/omscmr.fd) [8]

LaTeX Font Warning: Font shape ‘JT1/mc/m/it’ undefined
(Font)              using ‘JT1/mc/m/n’ instead on input line 210.


LaTeX Font Warning: Font shape ‘JY1/mc/m/it’ undefined
(Font)              using ‘JY1/mc/m/n’ instead on input line 210.

[9]
?? 2 ??

LaTeX Warning: Citation ‘gb-manuals-writing-method’ on page 10 undefined on inp
ut line 232.

[10] [11]

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

[12]
Overfull \hbox (51.28922pt too wide) in paragraph at lines 419--420
[]\JY1/mc/m/n/10 ?????????m?F?????B ?f ?B ???N?g???A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/do
c/xml/man/pdf \JY1/mc/m/n/10 ???? \OT1/cmr/m/n/10 PDF \JY1/mc/m/n/10 ?t ?@ ?C??
????????B \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/man/html

Underfull \hbox (badness 6559) in paragraph at lines 437--438
[]\OT1/cmr/m/n/10 GLOBALBASE \JY1/mc/m/n/10 ?????}?j ?? ?A???y ?[?W?? ?A \OT1
/cmr/m/n/10 http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-
[13] [14]
?? 3 ??

LaTeX Warning: Citation ‘gb-manuals-writing-method’ on page 15 undefined on inp
ut line 504.
```

```
Overfull \hbox (51.28922pt too wide) in paragraph at lines 526--527
[]\JY1/mc/m/n/10 ?????????m?F?????B ?f ?B ???N?g???A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/do
c/xml/man/pdf \JY1/mc/m/n/10 ???? \OT1/cmr/m/n/10 PDF \JY1/mc/m/n/10 ?t ?@ ?C??
????????B \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/man/html
[15]
Underfull \hbox (badness 6559) in paragraph at lines 544--545
[]\OT1/cmr/m/n/10 GLOBALBASE \JY1/mc/m/n/10 ?????}?j ?? ?A???y ?[?W?? ?A \OT1
/cmr/m/n/10 http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-
[16]
?? 4 ??
[17] [18]
Overfull \hbox (51.28922pt too wide) in paragraph at lines 704--705
[]\JY1/mc/m/n/10 ?????????m?F?????B ?f ?B ???N?g???A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/do
c/xml/man/pdf \JY1/mc/m/n/10 ???? \OT1/cmr/m/n/10 PDF \JY1/mc/m/n/10 ?t ?@ ?C??
????????B \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/man/html

Underfull \hbox (badness 6559) in paragraph at lines 722--723
[]\OT1/cmr/m/n/10 GLOBALBASE \JY1/mc/m/n/10 ?????}?j ?? ?A???y ?[?W?? ?A \OT1
/cmr/m/n/10 http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-
[19] [20]
?? 5 ??

Overfull \hbox (1.31525pt too wide) in paragraph at lines 783--784
[]\JY1/mc/m/n/10 ?o?O???| ?[?g?R ?[?h????W????A?C?e???t ?@ ?C????????
?B ??{?I?? ?A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/src/xml/bugs-
[21]
Overfull \hbox (51.28922pt too wide) in paragraph at lines 850--851
[]\JY1/mc/m/n/10 ?????????m?F?????B ?f ?B ???N?g???A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/do
c/xml/man/pdf \JY1/mc/m/n/10 ???? \OT1/cmr/m/n/10 PDF \JY1/mc/m/n/10 ?t ?@ ?C??
????????B \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/man/html
[22]
Underfull \hbox (badness 6559) in paragraph at lines 868--869
[]\OT1/cmr/m/n/10 GLOBALBASE \JY1/mc/m/n/10 ?????}?j ?? ?A???y ?[?W?? ?A \OT1
/cmr/m/n/10 http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-
[23]
?? 6 ??
[24]
Overfull \hbox (13.77843pt too wide) in paragraph at lines 1001--1002
\OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/src/images \JY1/mc/m/n/10 ????Q????B ??
????????\OT1/cmr/m/n/10 "/"\JY1/mc/m/n/10 ???K?v???B ??? ?A \OT1/cmr/m/n/1
0 PDF \JY1/mc/m/n/10 ?? ?A \OT1/cmr/m/n/10 gbs/doc/xml/src
[25] [26]
?? 7 ??
[27] [28] [29] [30] [31] [32] [33]
?? 8 ??
```

```
[34] [35] [36]
Overfull \hbox (1.72684pt too wide) in paragraph at lines 1531--1533
[]\OT1/cmr/m/n/10 /manual/reference-man/function-script/ re-turn [UN-DEF REF (g
b-manuals-manual--reference-man--
[37] [38]
Overfull \hbox (0.40884pt too wide) in paragraph at lines 1615--1616
[]\OT1/cmr/m/n/10 pdf-section-divide  [\JY1/mc/m/n/10 ?C??\OT1/cmr/m/n/10 ]  \J
Y1/mc/m/n/10 ?u\OT1/cmr/m/n/10 xl(standard) \JY1/mc/m/n/10 ?G ?[?W ?F ???g ?E
???t ?@ ?????X ?E ?}?j ?? ?A?? ?v  \OT1/cmr/m/n/10 [[]] \JY1/mc/m/n/10 ?? ?u\OT
1/cmr/m/n/10 XLT[]STRING(\JY1/mc/m/n/10 ??
[39] [40] [41] [42] [43] [44] [45] [46] [47] [48] [49] [50]
<../../src/images//manual/example-function-xml.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

<../../src/images//manual/example-function-xml-web.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

[51] <../../src/images//manual/example-function-xml-err.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

<../../src/images//manual/example-function-xml-err-web.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

[52] <../../src/images//manual/example-function-xl.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

<../../src/images//manual/example-function-xl-web1.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

<../../src/images//manual/example-function-xl-web2.eps>

LaTeX Warning: ‘h’ float specifier changed to ‘ht’.

[53] [54] [55] [56] [57] [58] [59] [60] [61] [62] [63] [64] [65] [66] [67]
[68] [69] [70] [71] [72] [73] [74] [75] [76] [77] [78] [79] [80] [81]
?? 9 ??
[82] [83] [84] [85] [86] [87] [88] [89] [90] [91] [92] [93] [94] [95]
?? 10 ??
[96] [97] [98] (./ja-manuals.bbl) [99] [100] (./ja-manuals.aux)
```

```
LaTeX Font Warning: Some font shapes were not available, defaults substituted.


LaTeX Warning: There were undefined references.


LaTeX Warning: There were multiply-defined labels.

 )
(see the transcript file for additional information)
Output written on ja-manuals.dvi (101 pages, 206420 bytes).
Transcript written on ja-manuals.log.
ja-manuals.dvi -> ja-manuals.pdf
[1][2][3][4][5][6][7][8][9][10][11][12][13][14][15][16][17][18][19][20][21]
[22][23][24][25][26][27][28][29][30][31][32][33][34][35][36][37][38][39][40]
[41][42][43][44][45][46][47][48][49][50][51][52][53][54][55][56][57][58][59]
[60][61][62][63][64][65][66][67][68][69][70][71][72][73][74][75][76][77][78]
[79][80][81][82][83][84][85][86][87][88][89][90][91][92][93][94][95][96][97]
[98][99][100][101]
941914 bytes written
DO line=169
        cp -r src/html/* man/html
        cp -r src/images man/html
        find man/html/images -name '*.ai' -exec rm {} \;
        find man/html/images -name '*.psd' -exec rm {} \;
        find man/html/images -name '*.txt' -exec rm {} \;
        find man/html/images -name '*.html' -exec rm {} \;
        find man/html/images -name '*.eps' -exec rm {} \;
        find man/html -name '*.xl' -exec rm {} \;
        touch man/html/index.html
warning work/xml/ja-bugs-report.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-cosmos.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-gbview.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-guide.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-httpgateway.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-landscape.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-localbase-ui.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-localbase.xml.ap
No such file or directory
```

```
warning work/xml/ja-manuals.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-xl.xml.ap
No such file or directory
warning work/xml/ja-xlsv.xml.ap
No such file or directory
[PowerBook19:gbs/doc/xml] joshua%
```

2.9 toc ファイルの CVS への追加

コンパイル後必要な制御ファイルが生成されていることを確認してください。たとえば、このマニュアルであれば以下のような制御ファイルが生成されています。

```
% cd gbs/doc/xml/work/xml
% ls ja-manuals*
ja-manuals.aux          ja-manuals.dvi          ja-manuals.toc
ja-manuals.bbl          ja-manuals.log          ja-manuals.xltoc
ja-manuals.blg          ja-manuals.tex
```

ここで、それぞれのファイルの意味は 表 2.1 の通りです。

表 2.1: 制御ファイルの意味

*.aux	TeX の log
*.bbl	BiBTeX の制御ファイル
*.blg	BiBTeX の制御ファイル
*.dvi	TeX の出力する DVI ファイル
*.log	TeX のログファイル
*.tex	exl manual.xl が出力した TeX のソースファイル
*.toc	TeX の出力する TOC 情報
*.xltoc	exl manual.xl の出力した TOC 情報
man/pdf/*.pdf	最終的に dvipdfmx が生成した PDF ファイル
man/html/*	最終的に exl manual.xl が生成した HTML ディレクトリおよびファイル群

[メモ]
TOC とは、Table Of Contents の略であり、目次情報のことです。

上記ファイルはいずれも、制御ファイルなので、コンパイル時に生成されるものではありますが、このうち、*.xltoc のみは CVS に追加します。これは、toc 情報の読み込みを迅速にするためです。

```
% cd gbs/doc/xml/work/xml
```

```
% cvs add *.xltoc
```

*.xltoc は新しく追加したマニュアルの TOC ファイルです。

2.10 HTML および PDF の確認

生成結果を確認します。ディレクトリ、gbs/doc/xml/man/pdf 内に PDF ファイルがあります。gbs/doc/xml/man/html 内に HTML ファイルがあります。これらが正しく生成されているかどうか確認します。

2.11 HTML の公開

現時点では、HTML の公開は基本的に森洋久が行います。しかし、ここで公開方法について述べます。gbs/doc/xml/man/html のディレクトリは CVS にコミットされているディレクトリでもあります。従って、これをそのまま公開すると、CVS という名前の制御ディレクトリまで公開されてしまいます。これを取り除く必要があります。取り除く方法は、

```
% cd gbs/doc/xml
% ./make.html.sh
```

という、取り除き用のスクリプト make.html.sh (10.4.2 節) を実行します。これを実行すると、CVS といったディレクトリが取り除かれた公開用ディレクトリ、gbs/doc/xml/man/man が出来ます。このディレクトリを所定の WWW サーバへアップしてください。

> [**メモ**]
> GLOBALBASE の公式マニュアルページは、http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-index.html ですが、基本的に、このディレクトリを他の場所へアップロードすると他の場所でも公開可能です。しかしその場合検索エンジンの窓は変更しておかないと、検索結果は、かならず公式ホームページへ飛ぶことになります。

2.12 CVS チェックイン

最後に編集したファイルを CVS へチェックインします。開発したソースコードなどがある場合は、一緒にチェックイン出来ます。

```
% cvs commit -m "manual" gbs
```

> [**注意**]
> チェックイン／チェックアウトはワークエリアのルートで行う必要があります。

第3章　既にあるマニュアルを編集する手順

3.1　概要

既にあるマニュアルを編集し、それを公開マニュアルに反映させる方法です。

3.2　この作業の前提となるシステム用件

本手順は、ソースコードの開発環境をそろえていることを前提としています。以下のファイルの保存場所などは、sourceforge.jp の CVS からコミットしたワークエリアに対する操作を説明しています。sourceforge.jp からの CVS の取得方法等については、「GLOBALBASE の開発 [?]」を参照してください。

3.3　CVS のチェックアウト

CVS はチェックアウト出来ているでしょうか。チェックアウトする場合は、

```
% cvs co gbs -P gbs
```

とします。

> **[注意]**
> チェックイン／チェックアウトはワークエリアのルートで行う必要があります。

3.4　マニュアルを編集する

gbs/doc/xml/src/xml の中のファイルを編集します。編集は、「マニュアル環境とマニュアルの書き方 [2]」に従ってください。なお、図表の編集は、6 節を参照してください。

3.5　コンパイル

マニュアルのコンパイルを実行します。

```
% cd gbs/doc/xml
% mmake
```

エラーが発生した場合は、エラーに対処してください。発生エラーのリファレンスは、7 節です。

3.6 HTML および PDF の確認

生成結果を確認します。ディレクトリ、gbs/doc/xml/man/pdf 内に PDF ファイルがあります。gbs/doc/xml/man/html 内に HTML ファイルがあります。これらが正しく生成されているかどうか確認します。

3.7 HTML の公開

現時点では、HTML の公開は基本的に森洋久が行います。しかし、ここで公開方法について述べます。gbs/doc/xml/man/html のディレクトリは CVS にコミットされているディレクトリでもあります。従って、これをそのまま公開すると、CVS という名前の制御ディレクトリまで公開されてしまいます。これを取り除く必要があります。取り除く方法は、

```
% cd gbs/doc/xml
% ./make.html.sh
```

という、取り除き用のスクリプト make.html.sh (10.4.2 節) を実行します。これを実行すると、CVS といったディレクトリが取り除かれた公開用ディレクトリ、gbs/doc/xml/man/man が出来ます。このディレクトリを所定の WWW サーバへアップしてください。

> [**メモ**]
> GLOBALBASE の公式マニュアルページは、http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-index.html ですが、基本的に、このディレクトリを他の場所へアップロードすると他の場所でも公開可能です。しかしその場合検索エンジンの窓は変更しておかないと、検索結果は、かならず公式ホームページへ飛ぶことになります。

3.8 CVS チェックイン

最後に編集したファイルを CVS へチェックインします。開発したソースコードなどがある場合は、一緒にチェックイン出来ます。

```
% cvs commit -m "manual" gbs
```

> [**注意**]
> チェックイン／チェックアウトはワークエリアのルートで行う必要があります。

第4章　バグレポートの記述方法(新たなバグレポートを追加する)

4.1　概要

バグレポートの記述方法は、基本的には通常のマニュアルのアップデート (3 節) と同じですが、ファイル構成が異なっています。そのため、更新作業が異なる部分があります。

4.2　この作業の前提となる知識

バグを発見し、報告してくれる人物は多いに歓迎です。現在、多くの場合、そのようなレポートは開発者または、GLOBALBASE の各種メーリングリストに寄せられます。このバグレポートはこのような開発者、つまり、CVS をコントロールできるであろう人たちへ寄せられることを前提としています。こういった開発者がこのマニュアルに新たなバグレポートを追加するということを前提としています。

4.3　この作業の前提となるシステム用件

本手順は、ソースコードの開発環境をそろえていることを前提としています。以下のファイルの保存場所などは、sourceforge.jp の CVS からコミットしたワークエリアに対する操作を説明しています。sourceforge.jp からの CVS の取得方法等については、「GLOBALBASE の開発 [?]」を参照してください。

4.4　バグレポートの構成

バグレポートのファイル構成は 表 4.1 の通りになっています。

表 4.1: バグレポートファイル構成

gbs/doc/xml/src/xml/ja-bugs-report.xml	バグレポート XML 本体
gbs/doc/xml/src/xml/bugs-reports	バグレポートアイテムの入ったディレクトリ
gbs/doc/xml/src/xml/bugs-reports/*.in	バグレポートアイテム

4.5　レポートコードの決定

まず、報告されたバグについて、レポートコードを割り振ります。コードの与え方は単純で W3C-DTF の日付の書式に、最後に、同一日に複数の報告があったときのための識別コード 2 桁を追加したものです。

```
2006-08-16-02
[年]-[月]-[日]-[識別コード]
```

となります。以降このコードを **レポートコード** と呼ぶことにします。

4.6 バグレポートアイテムの追加

バグレポートアイテムファイルを書き、ディレクトリ、gbs/doc/xml/src/xml/bugs-reports にセーブします。テンプレート、gbs/doc/xml/templates/bugs-reports-item.in をコピーし、利用するのが便利でしょう。 ファイル名は、

```
[レポートコード].in
```

という形になります。

このファイルはトラッキングパターンにおける item のみを記述します。item の code 属性には、レポートコードを与えます。title はバグの症状を簡潔に言い表したタイトルをつけます。title は [大まかなバグの分類](詳細な症状) といった記述になっています。例えば、

```
..... ]]>
```

というような形になります。item 内部の status タグは、現在のバグの状況、first-report はバグの所見、症状の説明。workaround はワークアラウンドを書きます。その他レポートを続けて行きます。これらのタグの詳細書き方については、 [UNDEF REF (gb-manuals-tracking–item)] を参照してください。

4.7 バグレポートアイテムの CVS への追加

bugs-reports ディレクトリに追加したアイテムのファイルを CVS へコミットします。

```
% cd gbs/doc/xml/src/xml/bugs-reports
% cvs add **.in
```

**.in はバグレポートアイテムのファイルです。

4.8 バグレポート本体ファイルの更新

新しく作ったバグレポートアイテムを本体ファイル、ja-bugs-report.xml に追加します。このファイルは、アーキテクチャ（Windows Linux など）によって tracking を分けてありますので、適切なトラッキングに追加します。 関係するアーキテクチャや項目が複数考えられる場合は、複数のトラッキングに同一のアイテムファイルを挿入してもかまいません。追加するためには、

```
]]>
```

というように input 文 [UNDEF REF (gb-manuals-input)] を使います。

[**注意**]
file 属性の与え方は、src ディレクトリからのパスを書くことに注意が必要です。。

4.9 コンパイル

マニュアルのコンパイルを実行します。これ以降はマニュアルの更新手続きの 3.5 節以降と同一の手順となります。

```
% cd gbs/doc/xml
% mmake
```

エラーが発生した場合は、エラーに対処してください。発生エラーのリファレンスは、 7 節です。

4.10 HTML および PDF の確認

生成結果を確認します。ディレクトリ、gbs/doc/xml/man/pdf 内に PDF ファイルがあります。gbs/doc/xml/man/html 内に HTML ファイルがあります。これらが正しく生成されているかどうか確認します。

4.11 HTML の公開

現時点では、HTML の公開は基本的に森洋久が行います。しかし、ここで公開方法について述べます。gbs/doc/xml/man/html のディレクトリは CVS にコミットされているディレクトリでもあります。従って、これをそのまま公開すると、CVS という名前の制御ディレクトリまで公開されてしまいます。これを取り除く必要があります。取り除く方法は、

```
% cd gbs/doc/xml
% ./make.html.sh
```

という、取り除き用のスクリプト make.html.sh (10.4.2 節) を実行します。これを実行すると、CVS といったディレクトリが取り除かれた公開用ディレクトリ、gbs/doc/xml/man/man が出来ます。このディレクトリを所定の WWW サーバへアップしてください。

[**メモ**]
GLOBALBASE の公式マニュアルページは、http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-index.html ですが、基本的に、このディレクトリを他の場所へアップロードすると他の場所でも公開可能です。しかしその場合検索エンジンの窓は変更しておかないと、検索結果は、かならず公式ホームページへ飛ぶことになります。

4.12 CVS チェックイン

最後に編集したファイルを CVS へチェックインします。開発したソースコードなどがある場合は、一緒にチェックイン出来ます。

```
% cvs commit -m "manual" gbs
```

[**注意**]
チェックイン／チェックアウトはワークエリアのルートで行う必要があります。

第5章　バグレポートの記述方法(バグレポートアイテムを更新する)

5.1　概要

バグレポートの記述方法は、基本的には通常のマニュアルのアップデート (3 節) と同じですが、ファイル構成が異なっています。そのため、更新作業が異なる部分があります。

5.2　この作業の前提となる知識

この手順は、 4 節を読んでいることを前提とします。

バグを発見し、報告してくれる人物は多いに歓迎です。現在、多くの場合、そのようなレポートは開発者または、GLOBALBASE の各種メーリングリストに寄せられます。このバグレポートはこのような開発者、つまり、CVS をコントロールできるであろう人たちへ寄せられることを前提としています。こういった開発者がこのマニュアルに新たなバグレポートを追加するということを前提としています。

5.3　この作業の前提となるシステム用件

本手順は、ソースコードの開発環境をそろえていることを前提としています。以下のファイルの保存場所などは、sourceforge.jp の CVS からコミットしたワークエリアに対する操作を説明しています。sourceforge.jp からの CVS の取得方法等については、 「GLOBALBASE の開発 [**?**]」を参照してください。

5.4　更新するバグレポートアイテムを決める

バグをフィックスした、状況を把握したなど、バグレポートアイテムを更新する必要が生じたときは、まずは、ホームページなどで更新するアイテムのバグレポートコードを確定します。

5.5　バグレポートアイテムの編集

バグレポートコードから編集するアイテムファイルがわかります。基本的には、gbs/doc/xml/src/xml/bugs-reports/ [バグレポートアイテム].in というファイル名になっています。

レポートを追加したら、status タグの属性を変更します。特に type 属性は重要です。

-
- **reported**

  バグが報告された段階。

- **observation**

  発生状況が技術者により観測され、状況報告された。

- **inprogress**

  バグ除去処理中

- **solved** 解決

という四つの段階を表しています。詳しくは、 [UNDEF REF (gb-manuals-tracking–item–status)] を参照してください。

もし、バグが solved 以外の状態であった場合は、次のステップを飛ばし、 5.7 節へ進んでください。

5.6 バグ解決時の処理

バグ解決時は、バグレポート本体のファイルにおいて、アイテムファイルを読み込んでいる位置を各アーキテクチャのトラッキングから、 [UNDEF REF (bugs-report-solved)] へ移動します。その場合、複数のアーキテクチャで参照されているアイテムはそれら全部を取り除く必要があります。注意してください。

5.7 コンパイル

マニュアルのコンパイルを実行します。ただし、アイテムファイルのみを更新した場合、 mmake (10.4.1 節) がそれを認識しないことがあります。念のため、本体ファイルをタッチすることをお勧めします。

```
% touch gbs/doc/xml/src/xml/bugs-report.xml
```

> [**注意**]
> 念のため本体ファイルを touch する。

これ以降はマニュアルの更新手続きの 3.5 節以降と同一の手順となります。

```
% cd gbs/doc/xml
% mmake
```

エラーが発生した場合は、エラーに対処してください。発生エラーのリファレンスは、 7 節です。

5.8 HTML および PDF の確認

生成結果を確認します。ディレクトリ、gbs/doc/xml/man/pdf 内に PDF ファイルがあります。gbs/doc/xml/man/html 内に HTML ファイルがあります。これらが正しく生成されているかどうか確認します。

5.9 HTML の公開

現時点では、HTML の公開は基本的に森洋久が行います。しかし、ここで公開方法について述べます。gbs/doc/xml/man/html のディレクトリは CVS にコミットされているディレクトリでもあります。従って、これをそのまま公開すると、CVS という名前の制御ディレクトリまで公開されてしまいます。これを取り除く必要があります。取り除く方法は、

```
% cd gbs/doc/xml
% ./make.html.sh
```

という、取り除き用のスクリプト make.html.sh (10.4.2 節) を実行します。これを実行すると、CVS といったディレクトリが取り除かれた公開用ディレクトリ、gbs/doc/xml/man/man が出来ます。このディレクトリを所定の WWW サーバへアップしてください。

> [**メモ**]
> GLOBALBASE の公式マニュアルページは、http://www.globalbase.org/globalbase/man/ja-index.html ですが、基本的に、このディレクトリを他の場所へアップロードすると他の場所でも公開可能です。しかしその場合検索エンジンの窓は変更しておかないと、検索結果は、かならず公式ホームページへ飛ぶことになります。

5.10 CVS チェックイン

最後に編集したファイルを CVS へチェックインします。開発したソースコードなどがある場合は、一緒にチェックイン出来ます。

```
% cvs commit -m "manual" gbs
```

> [**注意**]
> チェックイン／チェックアウトはワークエリアのルートで行う必要があります。

第6章　マニュアル文章に図や表を挿入する方法

6.1　概要

マニュアルに表を挿入する方法は、HTML のタグを知っていれば至って簡単です。table タグに、title や code をつけて、表の題名を指定したり、外部参照可能とすることが出来ること以外は HTML のタグと同じです。 9.2.9 節を参照してください。

ここでは特に注意が必要な図の挿入方法を説明します。

6.2　この作業の前提となるシステム用件

まず、必要なツールとして、Adobe イラストレータやフォトショップなどイメージのデータ変換が可能なツールを持っていることが重要です。

6.3　オリジナルイメージの準備

まず、図として挿入したいイメージを準備します。これを今後オリジナルイメージと呼びます。このイメージのデータ形式は特に何でも良いですが、 **最終的に、EPS ファイルと PNG などのピクセルデータの２種類のデータに変換する** ことを念頭に置いてください。これは、マニュアルの PDF データを出力するために EPS ファイルが必要であり、HTML 形式を出力するためにピクセルデータが必要だからです。

マニュアル環境では参照するイメージの保存場所がほぼ決まっています。オリジナルイメージデータはディレクトリ gbs/doc/xml/src/images の下へコピーしてください。このディレクトリの中には、おおまかに分類されたマニュアルごとのディレクトリがあります。対応するディレクトリがあればその中にコピーしてください。新しくマニュアルを作った場合等は、新たにディレクトリを作り保存してください。

保存を行ったら、CVS へ登録します。

```
% cd gbs/doc/xml/src/images/**
% cvs add -kb xx.ai
```

この例では、gbs/doc/xml/src/images/**というディレクトリの中に、xx.ai というオリジナルイメージファイルをコピーしたという想定です。ディレクトリを作成した場合は、そのディレクトリを CVS に追加してから上記を行う必要があります。

> **[注意]**
> cvs にバイナリファイルを登録する場合は、-kb オプションをつけてください。

6.4 オリジナルデータがピクセルデータの場合

オリジナルがピクセルデータでない場合は次のステップへ進んでください。ピクセルデータの場合、たいがいは WEB で読み込めるデータである可能性が高いです。従って、のこりは PDF 用の EPS データを用意するのみとなります。EPS データへの変換例としては、AdobePhotoshop をでピクセルデータを読み込み、これを、ファイルメニューから PhotoshopEPS 形式で保存することで作ることができます。そのときのオリジナルデータを消さないようにしてください。

> [**メモ**]
> おこでオリジナルデータはそのままピクセルデータとして使えるので、今後そのままピクセルデータと呼びます。新しく生成された EPS データを EPS データと呼ぶことにします。

6.5 オリジナルデータが EPS データなどベクタデータの場合

この場合は、illustrator でそのファイルを読み込みます。そして、「別名で保存」において、EPS データを指定し保存します。このときにフォントデータも一緒に含むようにして保存してください。でないと後の TeX などのプロセッサがフォントデータを認識出来ずエラーを起こします。

一方、ピクセルデータも作る必要があります。ピクセルデータは illustrator の「書き出し」を選択肢、PNG などのピクセルデータ形式を選んで保存してください。

> [**メモ**]
> ここでピクセルデータと EPS データが出来上がりました。

6.6 新しいファイルの CVS への登録

でき上がったピクセルデータと EPS データを CVS へ登録してください。

> [**注意**]
> cvs にバイナリファイルを登録する場合は、-kb オプションをつけてください。

6.7 マニュアルデータからの参照

マニュアルの文書ファイルからは img タグ (9.2.8 節) を使って参照します。

```
<img    src.pix="[ピクセルファイル]"
    src.eps="[EPS ファイル]"
    title="[図のタイトル]"
    code="[参照用コード]"/>
```

たとえば、

```
<img    src.pix="/manual/environment.png"
    src.eps="images//manual/environment.eps"
    title="マニュアル環境"
    code="fig-manual-environment"/>
```

ここで、注意が必要なのは、パスをどこからのパスにするかです。上記のようにピクセルファイルは、gbs/doc/xml/src/images からの参照になります。しかも最初に"/"が必要です。一方、PDF は、gbs/doc/xml/src からの参照となります。

6.8 コンパイル

実際に mmake (10.4.1 節) を使いコンパイルし、図が挿入されていることを確認します。

第7章　mmake時エラーリファレンス

7.1　概要

マニュアル環境において、 mmake (10.4.1 節) 処理を行ったときに発生するエラーのリファレンスです。mmake (10.4.1 節) の出すエラーは主に makefile 中の exl manual.xl の実行時に発生するものです。それは XL スクリプトのエラー形式に従います。これらの基本的なエラー形式の詳細については、「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XL エラーリファレンス」や、「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_ERROR(エラー型)」を参照してください。XL スクリプトのエラーが表示されるときは、

```
%E
("localhost" "src/xml/ja-xl.xml" 634 "parser" 0x80021306
("not correspond tag ( to" "prototype"))</Result>
```

という形式になっています。

```
%E
("エージェント名" "ファイル名" 行番号 "エラーが発生した関数" エラーコード
補足説明)</Result>
```

となっています。マニュアル環境の場合基本的に、”ファイル名”はマニュアルを記述した XML ファイルになります。行番号はそのファイルの中のエラーが発生した行番号になります。エラーコードは、パージングなどのエラーの場合は、それに対応したエラーコードになります。これらは、「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XL エラーリファレンス」を参照してください。スクリプト自身が報告するエラーは「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLE_PROTO_USER_ERROR」になります。本リファレンスはこれについて解説します。

エラーコードについては共通なので、このリファレンスでは、補足説明部分をプロトタイプとして記述して行きます。 なお、マニュアルを記述した XML ファイル以外のファイル名のエラーが発生している場合、たとえば、gbs/doc/xml/utils/xl 内のファイルなどの場合は、たいがいスクリプトのバグである可能性があるので、バグの報告を行ってください。

7.2 エラー

7.2.1 cannot nesting tag

■ プロトタイプ

cannot nesting tag [タグ名]

■ コード

XLE_PROTO_USER_ERROR

■ 内部要素

■ 属性

[タグ名] [1] manual XML 形式 (8 節) のタグ

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

なし

■ 説明

ネストしてはいけないタグをネストさせて使った。なお、マニュアル環境のタグはすべて小文字であるが、強調するため [タグ名] は大文字になるときがある。

■ 参考

■ バグ

7.2.2 tag is required

■ プロトタイプ

tag [タグ名] is required

■ コード

XLE_PROTO_USER_ERROR

■ 内部要素

■ 属性

[タグ名] [1] manual XML 形式 (8 節) のタグ

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

なし

■ 説明

示されたタグが必ず必要なところに、指定されていなかった。 なお、マニュアル環境のタグはすべて小文字であるが、強調するため [タグ名] は大文字になるときがある。

■ 参考

■ バグ

7.2.3 attribute is required

■ プロトタイプ

attribute [属性名] is required

■ コード

XLE_PROTO_USER_ERROR

■ 内部要素

■ 属性

[属性名] [1] manual XML 形式 (8 節) で使われるタグにおける属性名

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

なし

■ 説明

示された属性が必ず必要なところに、指定されていなかった。 なお、マニュアル環境の属性名はすべて小文字であるが、強調するため [属性名] は大文字になるときがある。

■ 参考

■ バグ

7.2.4 tag with specified attribute is required

■ プロトタイプ

tag [タグ名] with [属性名] ([属性値]) attribute is required

■ コード

XLE_PROTO_USER_ERROR

■ 内部要素

■ 属性

[タグ名] [1] manual XML 形式 (8 節) で使われるタグ名

[属性名] [1] 上記タグにつける属性の名前

[属性値] [0-1] 上記属性の持つべき値

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

なし

■ 説明

[属性値] を持った [属性名] の属性が指定された [タグ名] のタグが、必要なところに指定されていなかった。 なお、マニュアル環境の属性名、タグ名はすべて小文字であるが、強調するため [属性名] 等は大文字になるときがある。

■ 参考

■ バグ

7.2.5 you can use only one function type in the reference-man element

■ プロトタイプ

you can use only one function type in the reference-man element

■ コード

XLE_PROTO_USER_ERROR

■ 内部要素

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

なし

■ 説明

reference-man (8.2.12 節) の中で使用出来る機能項目セットは、一種類のみである。つまり、function-xml (8.2.13 節) や function-xl (8.2.15 節) などといった、reference-man 要素内部で使用可能な昨日項目セットのタグを複数使った。

■ 参考

■ バグ

7.2.6 invalid reference-man

■ プロトタイプ

invalid reference-man [タグ名]

■ コード

XLE_PROTO_USER_ERROR

■ 内部要素

■ 属性

[タグ名] [1] manual XML 形式 (8 節) で使われるタグ名

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

なし

■ 説明

これは、TeX コードをジェネレートするときに出るエラーであるが、前段階のタグチェックをすり抜けてきた可能性があり、バグである可能性が高い。バグレポートとして挙げてほしい。

■ 参考

■ バグ

第8章　マニュアルXMLデータ形式

8.1　概要

マニュアル XML データ形式について説明します。タグの構造を以下に記述する。

- /manual (8.2.1 節)
- /manual/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/ history (8.2.2 節)
- /manual/history/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/ target (8.2.3 節)
- /manual/target/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/ human-requirement (8.2.4 節)
- /manual/human-requirement/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/ system-requirement (8.2.5 節)
- /manual/system-requirement/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/ author (8.2.6 節)
- /manual/author/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/ section (8.2.7 節)
- /manual/section/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/ sequence-man (8.2.8 節)
- /manual/sequence-man/ abstract (8.2.9 節)
- /manual/sequence-man/abstract/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/sequence-man/ human-requirement (8.2.4 節)
- /manual/sequence-man/human-requirement/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/sequence-man/ system-requirement (8.2.5 節)
- /manual/sequence-man/system-requirement/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/sequence-man/ step (8.2.10 節)
- /manual/sequence-man/step/ [マニュアル文章形式] (9 節)

- /manual/sequence-man/step/ topic (8.2.11 節)
- /manual/sequence-man/step/topic/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/ reference-man (8.2.12 節)
- /manual/reference-man/ abstract (8.2.9 節)
- /manual/reference-man/abstract/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/ human-requirement (8.2.4 節)
- /manual/reference-man/human-requirement/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/ system-requirement (8.2.5 節)
- /manual/reference-man/system-requirement/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/ function-xml (8.2.13 節)
- /manual/reference-man/function-xml/ prototype (8.2.17 節)
- /manual/reference-man/function-xml/prototype/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xml/ agent (8.2.18 節)
- /manual/reference-man/function-xml/agent/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xml/ path (8.2.19 節)
- /manual/reference-man/function-xml/path/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xml/ arguments (8.2.20 節)
- /manual/reference-man/function-xml/arguments/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xml/ attributes (8.2.21 節)
- /manual/reference-man/function-xml/attributes/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xml/ explain (8.2.22 節)
- /manual/reference-man/function-xml/explain/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xml/ bugs (8.2.23 節)
- /manual/reference-man/function-xml/bugs/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xml/ reference (8.2.24 節)
- /manual/reference-man/function-xml/reference/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/ function-xml-err (8.2.14 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/ prototype (8.2.17 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/prototype/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/ code-information (8.2.25 節)

- /manual/reference-man/function-xml-err/code-information/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/ agent (8.2.18 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/agent/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/ path (8.2.19 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/path/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/ arguments (8.2.20 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/arguments/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/ attributes (8.2.21 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/attributes/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/ explain (8.2.22 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/explain/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/ bugs (8.2.23 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/bugs/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/ reference (8.2.24 節)
- /manual/reference-man/function-xml-err/reference/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/ function-xl (8.2.15 節)
- /manual/reference-man/function-xl/ prototype (8.2.17 節)
- /manual/reference-man/function-xl/prototype/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xl/ environment (8.2.26 節)
- /manual/reference-man/function-xl/environment/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xl/ evaltype (8.2.27 節)
- /manual/reference-man/function-xl/evaltype/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xl/ agent (8.2.18 節)
- /manual/reference-man/function-xl/agent/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xl/ path (8.2.19 節)
- /manual/reference-man/function-xl/path/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xl/ arguments (8.2.20 節)
- /manual/reference-man/function-xl/arguments/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xl/ attributes (8.2.21 節)
- /manual/reference-man/function-xl/attributes/ [マニュアル文章形式] (9 節)

- /manual/reference-man/function-xl/ explain (8.2.22 節)
- /manual/reference-man/function-xl/explain/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xl/ return (8.2.28 節)
- /manual/reference-man/function-xl/return/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xl/ errors (8.2.29 節)
- /manual/reference-man/function-xl/errors/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-xl/ bugs (8.2.23 節)
- /manual/reference-man/function-xl/bugs/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/ function-script (8.2.16 節)
- /manual/reference-man/function-script/ prototype (8.2.17 節)
- /manual/reference-man/function-script/prototype/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-script/ environment (8.2.26 節)
- /manual/reference-man/function-script/environment/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-script/ arguments (8.2.20 節)
- /manual/reference-man/function-script/arguments/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-script/ explain (8.2.22 節)
- /manual/reference-man/function-script/explain/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-script/ return (8.2.28 節)
- /manual/reference-man/function-script/return/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-script/ errors (8.2.29 節)
- /manual/reference-man/function-script/errors/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/reference-man/function-script/ bugs (8.2.23 節)
- /manual/reference-man/function-script/bugs/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/ tracking (8.2.30 節)
- /manual/tracking/ item (8.2.31 節)
- /manual/tracking/item/ status (8.2.32 節)
- /manual/tracking/item/ first-report (8.2.33 節)
- /manual/tracking/item/first-report/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/tracking/item/ final-report (8.2.35 節)
- /manual/tracking/item/final-report/ [マニュアル文章形式] (9 節)

- /manual/tracking/item/ workaroud (8.2.34 節)
- /manual/tracking/item/workaroud/ [マニュアル文章形式] (9 節)
- /manual/tracking/item/ report (8.2.36 節)
- /manual/tracking/item/report/ [マニュアル文章形式] (9 節)

8.2 XML 要素

8.2.1 manual

■ プロトタイプ

<manual> manual タグ </manual>

■ 内部要素

- history (8.2.2 節) [1+]
- target (8.2.3 節) [1]
- human-requirement (8.2.4 節) [1]
- system-requirement (8.2.5 節) [1]
- author (8.2.6 節) [1]
- section (8.2.7 節) [0+]
- sequence-man (8.2.8 節) [0+]
- reference-man (8.2.12 節) [0+]
- tracking (8.2.30 節) [0+]
- [マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

pdf-section-divide [任意]「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」[3] の「XLT_STRING(文字列型)」PDF 用節分離章立て

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual [ルートタグ]

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

マニュアル XML 形式のルートタグ。 pdf-section-divide 属性を指定すると、PDF 出力において section (8.2.7 節) による記述部分と、 human-requirement (8.2.4 節), system-requirement (8.2.5 節), target (8.2.3 節) による記述文を、別々の章立てにする。section 部分の章の名前は、pdf-section-divide 属性に指定された値となる。

■ 参考

■ バグ

8.2.2 history

■ プロトタイプ

<history> [マニュアル文章形式] </history>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

date [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」W3C-DTF 日付

author [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」ヒストリ著者

version [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」この変更等が反映される GLOBALBASE バージョン

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/ manual (8.2.1 節)/history

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

マニュアルを生成の記述を変更した場合、この項目を一つ増やす。

■ 参考

■ バグ

8.2.3 target

■ プロトタイプ

<target> [マニュアル文章形式] </target>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [任意] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/ manual (8.2.1 節)/target

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

このマニュアルの目的とするところ、および概要

■ 参考

■ バグ

8.2.4 human-requirement

■ プロトタイプ

<human-requirement> [マニュアル文章形式] </human-requirement>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [任意] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/ manual (8.2.1 節)/human-requirement

/manual/ sequence-man (8.2.8 節)/human-requirement

/manual/ reference-man (8.2.12 節)/human-requirement

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

マニュアルの読者に、このマニュアルを読むにあたって要求される知識などについての記述。

■ 参考

■ バグ

8.2.5 system-requirement

■ プロトタイプ

<system-requirement> [マニュアル文章形式] </system-requirement>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [任意] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/ manual (8.2.1 節)/system-requirement

/manual/ sequence-man (8.2.8 節)/system-requirement

/manual/ reference-man (8.2.12 節)/system-requirement

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

このマニュアルに記載されていることを実行するにあたって、必要とされているシステムの用件の記述。

■ 参考

■ バグ

8.2.6 author

■ プロトタイプ

<author> [マニュアル文章形式] </author>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/ manual (8.2.1 節)/author

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

マニュアルの著者についての記述。著者が複数居る場合は著者ごとに author 要素をあてがうこと。

■ 参考

■ バグ

8.2.7 section

■ プロトタイプ

<section> [マニュアル文章形式] </section>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [任意] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/ manual (8.2.1 節)/section

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

マニュアルの冒頭に現れる、説明の節。 manual (8.2.1 節) タグに pdf-section-divide を指定しないと、「はじめに」の章の一部となる。

■ 参考

■ バグ

8.2.8 sequence-man

■ プロトタイプ

<sequence-man> [以下記述内部要素] </sequence-man>

■ 内部要素

- abstract (8.2.9 節) [1]
- human-requirement (8.2.4 節) [0-1]
- system-requirement (8.2.5 節) [0-1]
- step (8.2.10 節) [1+]

■ 属性

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

itemize [任意] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」 章のタイトルの接頭語の指定 default="ステップ"（日本語の場合）

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/ manual (8.2.1 節)/sequence-man

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

シーケンスパターン (1.6 節) の章の記述。

■ 参考

■ バグ

8.2.9 abstract

■ プロトタイプ

<abstract> [マニュアル文章形式] </abstract>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [任意] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/ sequence-man (8.2.8 節)/abstract

/manual/ reference-man (8.2.8 節)/abstract

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

このシーケンスパターンの章の概要を記述する。

■ 参考

■ バグ

8.2.10 step

■ プロトタイプ

<step> [以下記述内部要素] </step>

■ 内部要素

topic (8.2.11 節) [0+]

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [任意] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

type [任意] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」 lastcheck default=""

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/ sequence-man (8.2.8 節)/step

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

step は sequnece-man 内に複数指定可。必ず type="lastcheck"属性を持った step を一つ用意すること。

■ 参考

■ バグ

8.2.11 topic

■ プロトタイプ

<topic> [マニュアル文章形式] </topic>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

type [任意] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」 memo/attention/check

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/sequence-man/ step (8.2.10 節)/topic

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

トピック項目を挿入する。memo は「メモ」、attention は「注意」、check は「チェック」というタイトルをつけ、枠で囲う。

■ 参考

■ バグ

8.2.12 reference-man

■ プロトタイプ

<reference-man> [以下記述内部要素] </reference-man>

■ 内部要素

- abstract (8.2.9 節) [1]
- human-requirement (8.2.4 節) [0-1]
- system-requirement (8.2.5 節) [0-1]
- function-xml (8.2.13 節) [0+]
- function-xml-err (8.2.14 節) [0+]
- function-xl (8.2.15 節) [0+]
- function-script (8.2.16 節) [0+]

■ 属性

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/ manual (8.2.1 節)/reference-man

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

リファレンスパターン (1.6 節) の章の記述。

■ 参考

■ バグ

8.2.13 function-xml

■ プロトタイプ

<function-xml> [以下記述内部要素]</function-xml>

■ 内部要素

- prototype (8.2.17 節) [1]
- code-information (8.2.25 節) [1]
- agent (8.2.18 節) [1]
- path (8.2.19 節) [1]
- arguments (8.2.20 節) [1]
- attributes (8.2.21 節) [1]
- explain (8.2.22 節) [1]
- bugs (8.2.23 節) [1]
- reference (8.2.24 節) [1]

■ 属性

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [任意] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/ reference-man (8.2.12 節)/function-xml

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

XML 形式の解説用の機能項目セットを与える。

図 8.1 は、当該要素をコンパイルした場合の PDF 版のページの様子。 図 8.2 の様子である。

■ 参考

■ バグ

8.2.14 function-xml-err

■ プロトタイプ

<function-xml-err> [以下記述内部要素]</function-xml-err>

■ 内部要素

- prototype (8.2.17 節) [1]
- agent (8.2.18 節) [1]
- path (8.2.19 節) [1]
- arguments (8.2.20 節) [1]
- attributes (8.2.21 節) [1]
- explain (8.2.22 節) [1]
- bugs (8.2.23 節) [1]
- reference (8.2.24 節) [1]

■ 属性

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [任意] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/ reference-man (8.2.12 節)/function-xml-err

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

XML 形式エラーの解説用の機能項目セットを与える。

図 8.3 は、当該要素をコンパイルした場合の PDF 版のページの様子。 図 8.4 の様子である。

■ 参考

■ バグ

8.2.15 function-xl

■ プロトタイプ

<function-xl> [以下記述内部要素]</function-xl>

■ 内部要素

- prototype (8.2.17 節) [1]
- environment (8.2.26 節) [1]
- evaltype (8.2.27 節) [1]
- agent (8.2.18 節) [1]
- path (8.2.19 節) [1]
- arguments (8.2.20 節) [1]
- attributes (8.2.21 節) [1]
- explain (8.2.22 節) [1]
- return (8.2.28 節) [1]
- errors (8.2.29 節) [1]
- bugs (8.2.23 節) [1]
- reference (8.2.24 節) [1]

■ 属性

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [任意] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/ reference-man (8.2.12 節)/function-xl

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

XL 関数の解説用の機能項目セットを与える。

図 8.5 は、当該要素をコンパイルした場合の PDF 版のページの様子。 図 8.6 図 8.7 の様子である。

■ 参考

■ バグ

8.2.16 function-script

■ プロトタイプ

<function-script> [以下記述内部要素]</function-script>

■ 内部要素

- prototype (8.2.17 節) [1]
- environment (8.2.26 節) [1]
- arguments (8.2.20 節) [1]
- explain (8.2.22 節) [1]
- return (8.2.28 節) [1]
- errors (8.2.29 節) [1]
- bugs (8.2.23 節) [1]
- reference (8.2.24 節) [1]

■ 属性

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [任意] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/ reference-man (8.2.12 節)/function-script

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

csh などのスクリプトの解説用の機能項目セットを与える。

■ 参考

■ バグ

8.2.17 prototype

■ プロトタイプ

<prototype> [マニュアル文章形式] </prototype>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [任意] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/reference-man/ function-xml (8.2.13 節)/prototype

/manual/reference-man/ function-xml-err (8.2.14 節)/prototype

/manual/reference-man/ function-xl (8.2.15 節)/prototype

/manual/reference-man/ function-script (8.2.16 節)/prototype

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

機能を実現する記述法を、簡潔かつわかりやすく記述する項目。

■ 参考

■ バグ

8.2.18 agent

■ プロトタイプ

<agent> [マニュアル文章形式] </agent>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/reference-man/ function-xml (8.2.13 節)/agent

/manual/reference-man/ function-xml-err (8.2.14 節)/agent

/manual/reference-man/ function-xl (8.2.15 節)/agent

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

機能の属するエージェントの記述。

■ 参考

■ バグ

8.2.19 path

■ プロトタイプ

<path> [マニュアル文章形式] </path>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/reference-man/ function-xml (8.2.13 節)/path

/manual/reference-man/ function-xml-err (8.2.14 節)/path

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

XML のタグとしての定義位置をパスの形で記述。

■ 参考

■ バグ

8.2.20 arguments

■ プロトタイプ

<arguments> [マニュアル文章形式] </arguments>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/reference-man/ function-xml (8.2.13 節)/arguments

/manual/reference-man/ function-xml-err (8.2.14 節)/arguments

/manual/reference-man/ function-xl (8.2.15 節)/arguments

/manual/reference-man/ function-script (8.2.16 節)/arguments

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

当該要素の内部要素についての記述。内部要素が省略しても良いか、何回まで繰り返し使用出来るかを説明する。また、内部要素が型を持つ物であれば型について説明する。

■ 参考

■ バグ

8.2.21 attributes

■ プロトタイプ

<attributes> [マニュアル文章形式] </attributes>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/reference-man/ function-xml (8.2.13 節)/attributes

/manual/reference-man/ function-xml-err (8.2.14 節)/attributes

/manual/reference-man/ function-xl (8.2.15 節)/attributes

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

タグにつけられる属性のリスト。属性が、必須なのか任意なのか、あるいは型がわかるものは型についての記述、データが限定されている物は、データの種類について記述する。任意である場合は、デフォルト値も記述。

■ 参考

■ バグ

8.2.22 explain

■ プロトタイプ

<explain> [マニュアル文章形式] </explain>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/reference-man/ function-xml (8.2.13 節)/explain

/manual/reference-man/ function-xml-err (8.2.14 節)/explain

/manual/reference-man/ function-xl (8.2.15 節)/explain

/manual/reference-man/ function-script (8.2.16 節)/explain

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

当該機能についての包括的な説明。

■ 参考

■ バグ

8.2.23 bugs

■ プロトタイプ

<bugs> [マニュアル文章形式] </bugs>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/reference-man/ function-xml (8.2.13 節)/bugs
/manual/reference-man/ function-xml-err (8.2.14 節)/bugs
/manual/reference-man/ function-xl (8.2.15 節)/bugs
/manual/reference-man/ function-script (8.2.16 節)/bugs
詳しくは、 8 節概要

■ 説明

当該機能に関連したバグについての説明。

■ 参考

■ バグ

8.2.24 reference

■ プロトタイプ

<reference> [マニュアル文章形式] </reference>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/reference-man/ function-xml (8.2.13 節)/reference

/manual/reference-man/ function-xml-err (8.2.14 節)/reference

/manual/reference-man/ function-xl (8.2.15 節)/reference

/manual/reference-man/ function-script (8.2.16 節)/reference

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

当該機能に関連した文献や事項。

■ 参考

■ バグ

8.2.25 code-information

■ **プロトタイプ**

<code-information> [マニュアル文章形式] </code-information>

■ **内部要素**

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ **属性**

■ **所属エージェント**

exl manual.xl

■ **要素パス表現**

/manual/reference-man/ function-xml-err (8.2.14 節)/code-information

詳しくは、 8 節概要

■ **説明**

エラーコードの記述。

■ **参考**

■ **バグ**

8.2.26 environment

■ プロトタイプ

<environment> [マニュアル文章形式] </environment>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/reference-man/ function-xl (8.2.15 節)/environment

/manual/reference-man/ function-script (8.2.16 節)/environment

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

function-xl においては、当該 XL 関数の定義されている環境についての記述。

function-script においては、csh の環境変数などについての説明。

■ 参考

■ バグ

8.2.27 evaltype

■ プロトタイプ

<evaltype> [マニュアル文章形式] </evaltype>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/reference-man/ function-xl (8.2.15 節)/evaltype

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

当該 XL 関数の評価方式。基本的には、normal/applicative/elementapplicative/envronment/の４タイプのみであるが、特に自由期日で補足説明を行っても問題ない。

■ 参考

■ バグ

8.2.28 return

■ プロトタイプ

<return> [マニュアル文章形式] </return>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/reference-man/ function-xl (8.2.15 節)/return

/manual/reference-man/ function-script (8.2.16 節)/return

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

XL 関数やスクリプトの戻り値についての記述。エラー発生時は、 errors [UNDEF REF (gb-manuals-manual–reference-man-xl–errors)] の項目に記述する。

■ 参考

■ バグ

8.2.29 return

■ プロトタイプ

<errors> [マニュアル文章形式] </errors>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/reference-man/ function-xl (8.2.15 節)/errors

/manual/reference-man/ function-script (8.2.16 節)/errors

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

XL 関数やスクリプトの発生しうるエラーの記述。

■ 参考

■ バグ

8.2.30 tracking

■ **プロトタイプ**

<tracking> [以下記述内部要素] </tracking>

■ **内部要素**

- item (8.2.31 節) [0+]

■ **属性**

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

■ **所属エージェント**

exl manual.xl

■ **要素パス表現**

/ manual (8.2.1 節)/tracking

詳しくは、 8 節概要

■ **説明**

トラッキングパターン (1.6 節) の章の記述。現在、トラッキングのパターンとしては以下のパターンが実装されておりいずれも、item の report-type で指定する。

- report-type="bugs" : バグレポート
- report-type="function" : 新機能説明
- report-type="tuning" : チューニング（調整）解説
- report-type="faq" : Frequency Ask of Question

■ **参考**

■ **バグ**

8.2.31 item

■ プロトタイプ

<item> [以下記述内部要素] </item>

■ 内部要素

- status (8.2.32 節)
- final-report (8.2.35 節)
- workaroud (8.2.34 節)
- report (8.2.36 節)

■ 属性

title [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」マニュアルタイトル

code [必須] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」参照用コード

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/ tracking (8.2.30 節)/item

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

トラッキングパターン (1.6 節) の一つのアイテムを記述する。アイテムには code 属性は必須である。バグトラッキングに関しては、以下に述べるトラッキングパターンのバグコードの標準的な与え方に順所する。それ以外のトラッキングに関しては順所の限りではない。

バグコードは W3C-DTF にさらに、同一日で複数のレポートがあった場合のための二桁の識別子をつける。この識別子は 00 からスタートする。つまり、

```
2006-08-20-03
```

といった具合である。この例では、2006 年 8 月 20 日に報告された 4 番目のバグであるという意味である。

■ 参考

■ バグ

8.2.32 status

■ **プロトタイプ**

<status/>

■ **内部要素**

■ **属性**

type [1] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」現在の状態 reported/observation/inprogress/solved

os [1] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」このアイテムが関わっていると考えられる OS

version [1] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」このアイテムが関わっていると考えられる GLOBALBASE バージョン

agent [1] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」このアイテムが関わっていると考えられるエージェント

report-type [1] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」ver.B.b11.02 以前では bugs のみ。ver.B.b12 以降では、bugs/function、ver.B.b12.01 以降では、bugs/function/faq/tuning

report-os [1] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」当初バグが発見された OS

report-version [1] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」そのときの GLOBALBASE バージョン

report-agent [1] 「xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3] の「XLT_STRING(文字列型)」当初バグが発見されたエージェント

■ **所属エージェント**

exl manual.xl

■ **要素パス表現**

/manual/tracking/ item (8.2.31 節)/status

詳しくは、 8 節概要

■ **説明**

item (8.2.31 節) の現在の状態を表す。特に type 属性は以下の意味を持つ。 report-type="bugs"のときは以下の意味をもつ。

- reported： バグ等が報告されたばかりの状態。バグであれば報告されたが、技術者が確認出来たいない状態を表す。この時点で、report-type,report-os,report-version,report-agent の各属性は埋められる。 これらの属性はバグ等の報告者からの情報により当初どのような OS などでバグが発生したのかをしめす。
- observation：報告されたバグが、技術者によって確認出来た、再現出来た状態を表す。
- inprogress：バグの場合、確認出来たバグに対して技術者が処理を行っている状態。
- solved：バグ等が解決された、 first-report (8.2.33 節) に対して、はっきりした回答が得られたという状態を示す。

report-type="function"のときは以下の意味をもつ。

- reported：新機能の要求があったという段階。実装するかどうかは決定されていない。
- observation：新機能の要求が実装すると決定された段階。

- inprogress：現在新機能は実装段階であること。
- solved：実装が完了した段階。

report-type="tuning"のときは以下の意味をもつ。

- reported：チューニングの要請があったという段階。実装するかどうかは決定されていない。
- observation：チューニング能の要求を実装すると決定された段階。
- inprogress：現在チューニングは実装段階であること。
- solved：チューニングが完了した段階。

report-type="faq"のときは type は無視される。

os, version, agent の各属性は、以上、observation 以降のどこかの段階で、技術者が、このバグ等の報告がどの程度の広がりをもって OS, GLOBALBASE バージョンに関わっているかを記述する。

■ 参考

■ バグ

8.2.33 first-report

■ プロトタイプ

<first-report> [マニュアル文章形式]</first-report>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

date [1] 初期報告がなされた日時

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/tracking/ item (8.2.31 節)/first-report

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

何らかの初期報告があった場合、その初期報告を記述する。

■ 参考

■ バグ

8.2.34 workaround

■ プロトタイプ

<workaround> [マニュアル文章形式]</workaround>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/tracking/ item (8.2.31 節)/workaround

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

report-type="bugs"のとき有効。 observation の段階で技術者が、バグを回避する方法をここに記述する。

■ 参考

■ バグ

8.2.35 final-report

■ プロトタイプ

<final-report> [マニュアル文章形式]</final-report>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

date [1] 報告がなされた日時

author [1] レポート記述者

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/tracking/ item (8.2.31 節)/final-report

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

report-type="bugs"のとき、 最終的に問題が解決したときに、解決法を書き、当該アイテムを締めるレポート。このレポートを記述する段階で、 status (8.2.32 節) の type 属性は、solved の状態にしなければならない。

report-type="function"のとき、最終的に実装が完了した段階で実装概況を報告する。

■ 参考

■ バグ

8.2.36 report

■ プロトタイプ

<report> [マニュアル文章形式]</report>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

date [1] 初期報告がなされた日時

author [1] レポート記述者

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/manual/tracking/ item (8.2.31 節)/report

詳しくは、 8 節概要

■ 説明

中間報告。これを記述するのは、 status (8.2.32 節) の type 属性が inprogress の段階である。

■ 参考

■ バグ

7.2.2 history

■ プロトタイプ

< history> [マニュアル文章形式] < /history>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] [UNDEF REF (gb-manuals-doc)]

■ 属性

date [必須] 「xl(standard)エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3]の「XLT_STRING(文字列型)」 W3C-DTF 日付

author [必須] 「xl(standard)エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3]の「XLT_STRING(文字列型)」ヒストリ著者

version [必須] 「xl(standard)エージェント・リファレンス・マニュアル」 [3]の「XLT_STRING(文字列型)」この変更等が反映される GLOBALBASE バージョン

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

/ manual (7.2.1節)/history

詳しくは、 7節概要

■ 説明

マニュアルを生成の記述を変更した場合、この項目を一つ増やす。

■ 参考

■ バグ

36

図 8.1: function-xml 機能項目の実際 (PDF 版の場合)

図 8.2: function-xml 機能項目の実際 (WEB 版の場合)

4.3.6 MarkUpdateError

■ プロトタイプ

```
<gvha-status>
    <result type="PointOutOfBound">
    Cannot update the mark
    [error]
    <result/>
</gvha-status>
```

■ コード

PointOutOfBound

■ 内部要素

[error] XLエラー型　mark関数 [UNDEF REF (vector–mark)]が発生したエラー

■ 属性

■ 所属エージェント

http-gateway

■ 要素パス表現

なし

■ 説明

vctファイルに markを生成しようとしたらエラーが起きた。

gbviewの発するエラー

■ 参考

「gbviewエージェント・リファレンス・マニュアル」 [1]の「gbview HTTPリザルトコードリファレンス」

■ バグ

32

図 8.3: function-xml-err 機能項目の実際 (PDF 版の場合)

MarkUpdateError - Netscape

MarkUpdateError

著者: 森　洋久 / joshua@globalbase.org　※　中島　智人 / nakajima@zeta.co.jp / 株式会社ゼータ　※

プロトタイプ

```
<gvha-status>
        <result type="PointOutOfBound">
        Cannot update the mark
        [error]
        <result/>
</gvha-status>
```

コード

PointOutOfBound

内部要素

[error] XLエラー型　mark関数 [UNDEF REF (vector--mark)]が発生したエラー

属性

所属エージェント

http-gateway

要素パス表現

なし

説明

vctファイルにmarkを生成しようとしたらエラーが起きた。

gbviewの発するエラー

▲ページトップへ戻る

参考

「gbview HTTP リザルトコードリファレンス」

バグ

図 8.4: function-xml-err 機能項目の実際 (WEB 版の場合)

8.2.54 SetListbaseEnv

■ プロトタイプ

XML 形式

< SetListbaseEnv>

envXML environment</SetListbaseEnv>

< SetListbaseEnv>

envXML</SetListbaseEnv>

■ 引数

envXML [1] XLT_PAIR (5.2.3節) 環境情報を表す XML

environemnt [0-1] XLT_ENV (5.2.12節) 環境情報 envXMLをセットする環境

■ 属性

■ 評価形式

normal

■ 所属エージェント

xl

■ 所属環境

Env0

■ 説明

環境 environmentに環境情報 envXMLをセットする。 envXMLの構造に関しては、 6節を参照されたい。 environmentが省略された場合は、新しい環境が生成され、そこにセットアップされる。

■ 戻り値

セットアップされた XLT_ENV (5.2.12節)。 environmentが指定されている場合は、 environment

■ エラー

1. XLE_SEMANTICS_TYPE_MISSMATCH (7.2.49節)

   envXML,environmentの型が異なる。

2. XLE_SEMANTICS_INV_FORMAT (7.2.49節)

   environmentのフォーマットがあっていない。

■ 参考

[UNDEF REF (GetListbaseEnv)], 6節

■ バグ

図 8.5: function-xl 機能項目の実際 (PDF 版の場合)

SetListbaseEnv - Netscape

GLOBALBASEマニュアル集 >> xl(standard)エージェント・リファレンス・マニュアル >> XL基本関数 >>

SetListbaseEnv

2006-08-16版

フリーキーワード 検索

SetListbaseEnv

著者: 森　洋久 / joshua@globalbase.org　※

プロトタイプ

XML 形式

<SetListbaseEnv>

envXML environment </SetListbaseEnv>

<SetListbaseEnv>

envXML </SetListbaseEnv>

引数

envXML [1] XLT_PAIR 環境情報を表すXML

environemnt [0-1] XLT_ENV 環境情報 *envXML* をセットする環境

属性

評価形式

normal

所属エージェント

xl

所属環境

Env0

図 8.6: function-xl 機能項目の実際 (WEB 版の場合)1

SetListbaseEnv - Netscape

評価形式

normal

所属エージェント

xl

所属環境

Env0

説明

環境 *environment* に環境情報 *envXML* をセットする。 *envXML* の構造に関しては、 「Listbase Environment型リファレンス」 を参照されたい。 *environment* が省略された場合は、新しい環境が生成され、そこにセットアップされる。

▲ページトップへ戻る

戻り値

セットアップされた XLT_ENV 。 *environment* が指定されている場合は、 *environment* 。

エラー

1. XLE_SEMANTICS_TYPE_MISSMATCH
   envXML,environmentの型が異なる。
2. XLE_SEMANTICS_INV_FORMAT
   environmentのフォーマットがあっていない。

参考

[UNDEF REF (GetListbaseEnv)], 「Listbase Environment型リファレンス」

バグ

▲ページトップへ戻る

GLOBALBASE SOURCEFORGE JP

図 8.7: function-xl 機能項目の実際 (WEB 版の場合)2

第9章　マニュアルXML文章記述タグ

9.1　概要

マニュアルを記述するときの改行、図や表の挿入について記述する。基本的には、HTML のタグを基準として作られているが、PDF の出力に関する属性が定義されているなど若干異なっても居る。また、タグはすべて小文字で構成すること。これも HTML と異なる点である。

9.2 XML 要素

9.2.1 br

■ プロトタイプ

■ 内部要素

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

[マニュアル XML 基本タグ] (8 節)/br

■ 説明

改行を挿入する。HTML の場合、通常は 2 行改行となる。 ul (9.2.4 節), ol (9.2.3 節) などアイテマイズの中で使った場合など一部 1 回の改行となることもある。

■ 参考

■ バグ

9.2.2 ref

■ **プロトタイプ**

1. <ref/>
2. <ref ref=" [code]"> [マニュアル文章形式] </ref>

■ **内部要素**

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ **属性**

ref [必須] 参照先のコード等。

■ **所属エージェント**

exl manual.xl

■ **要素パス表現**

[マニュアル XML 基本タグ] (8 節)/ref

■ **説明**

マニュアル記述において様々なタグで設定した code を参照する。code の内容が解釈されこの場所に、章番号や章のタイトルなどが挿入される。 属性 ref に指定出来るのは code と、URL である。

プロトタイプ 1 の記述方式をした場合、マニュアル環境のデフォルトの文字列が挿入される。デフォルトの文字列も、PDF の場合と HTML の場合で異なる。

- **PDF の場合**
  - **ref の内容が code の場合**
    参照先のタグの章番号など TeX 順所の参照番号が「節」「章」「図」「表」などの文字とともに挿入される。
  - **ref の内容が URL の場合**
    URL がそのまま記述される。
- **HTML の場合**
  - **ref の内容が code の場合**
    参照先のタグの title の文字列が挿入される。必要に応じて「図」「表」などの文字とともに挿入される。この挿入文字全体を、アンカーで囲い、参照先へのリンクをはる。
  - **ref の内容が URL の場合**
    URL の参照先へのリンクのアンカーで囲われた URL が記述される。

プロトタイプ 2 の記述方式をした場合、囲われている [マニュアル文章形式] に対して以下のような加工がなされる。

- **PDF の場合**
  - **ref の内容が code の場合**
    [マニュアル文章形式] の直後に、 () つきで、参照先のタグの章番号など TeX 順所の参照番号が「節」「章」「図」「表」などの文字とともに挿入される。
  - **ref の内容が URL の場合**
    [マニュアル文章形式] の直後に、 () つきで、URL が記述される。
- **HTML の場合**

- **ref の内容が code の場合**

  [マニュアル文章形式] の全体を、アンカーで囲い、参照先へのリンクをはる。

- **ref の内容が URL の場合**

  [マニュアル文章形式] の全体を、URL で示されるページへのアンカーで囲う。

code が解決出来なかった場合は、UNDEF REFERENCE (codde) の文字列を挿入する。

■ 参考

■ バグ

9.2.3 ol

■ プロトタイプ

 il-statements

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

 [UNDEF REF (gb-manuals-doc-ol-li)]

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

[マニュアル XML 基本タグ] (8 節)/ol

■ 説明

数字によるアイテマイズ。PDF では、TeX の

```
\begin{enumerate}
....
\end{enumerate}
```

環境に変換される。HTML では、ol タグにそのまま出力される。 内部要素 li によってアイテマイズされる。

■ 参考

■ バグ

9.2.4 ul

■ **プロトタイプ**

 il-statements

■ **内部要素**

v

 [UNDEF REF (gb-manuals-doc-ol-li)]

■ **属性**

■ **所属エージェント**

exl manual.xl

■ **要素パス表現**

[マニュアル XML 基本タグ] (8 節)/ul

■ **説明**

アイテマイズ。PDF では、TeX の

```
\begin{itemize}
....
\end{itemize}
```

環境に変換される。HTML では、ul タグにそのまま出力される。 内部要素 li によってアイテマイズされる。

■ **参考**

■ **バグ**

9.2.5 il

■ プロトタイプ

■ 内部要素

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

[マニュアル XML 基本タグ]/ ol (9.2.3 節)/li

[マニュアル XML 基本タグ]/ ul (9.2.4 節)/li

■ 説明

アイテマイズ環境のアイテマイズ項目。PDF では、TeX の `verb+|+|`item に相当する。HTML では li タグにそのまま出力される。

■ 参考

■ バグ

9.2.6 b

■ プロトタイプ

 [マニュアル文章形式]

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

[マニュアル XML 基本タグ] (8 節)/b

■ 説明

[マニュアル文章形式] の文章をボールド、ゴシックにする。

■ 参考

■ バグ

9.2.7 it

■ プロトタイプ

<it> [マニュアル文章形式]</it>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

[マニュアル XML 基本タグ] (8 節)/it

■ 説明

[マニュアル文章形式] の文章をイタリック、斜字体にする。

■ 参考

■ バグ

9.2.8 img

■ プロトタイプ

■ 内部要素

■ 属性

src.eps [1] 文字列 PDF 形式用の EPS ファイル名を指定

src.pix [1] 文字列 HTML 形式用のピクセルデータファイルを指定。

title [1] 文字列　図のタイトル。

code [1] 文字列　参照用コード

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

[マニュアル XML 基本タグ] (8 節)/img

■ 説明

図を挿入する。マニュアル環境では図のファイルは、gbs/doc/xml/src/images の下に保存する約束となっている。 ファイル名の参照パスは、PDF と HTML で若干異なる。PDF の場合は、gbs/doc/xml/src の場所をルートとした位置からのパス。従って、images/.... というパスになる。 HTML の場合は、図が HTML のディレクトリにコピーされてしまうので、gbs/doc/xml/src/images の場所からのパスとなる。 図を挿入する場合、PDF 用の EPS ファイルと、HTML 用の各種ピクセルファイルの両方を用意する必要がある。ピクセルファイルはブラウザが理解可能であるピクセルデータであればどんなデータ形式でもよい。

■ 参考

■ バグ

9.2.9 table

■ プロトタイプ

<table> tr-statement .... </table>

■ 内部要素

tr-statement [1+] [UNDEF REF (gb-manuals-doc–tr)]

■ 属性

title [1] 文字列 図のタイトル。

code [1] 文字列 参照用コード

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

[マニュアル XML 基本タグ] (8 節)/table

■ 説明

テーブルを挿入する。HTML のテーブルと同じように、

```
<table>
    <tr>
        <td>....</td>
        <td>....</td>
        .....
    </tr>
    .....
</table>
```

という形式になっている。

■ 参考

■ バグ

9.2.10 tr

■ **プロトタイプ**

<tr> td-statement .... </tr>

■ **内部要素**

td-statement [1+] [UNDEF REF (gb-manuals-doc–tr)]

■ **属性**

■ **所属エージェント**

exl manual.xl

■ **要素パス表現**

[マニュアル XML 基本タグ]/ table (9.2.9 節)/tr

■ **説明**

テーブルの１行データ。HTML のテーブルと同じように、

```
<table>
    <tr>
        <td>....</td>
        <td>....</td>
        .....
    </tr>
    .....
</table>
```

という形式になっている。

■ **参考**

■ **バグ**

9.2.11 td

■ プロトタイプ

<td> [マニュアル文章形式] </td>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

pdf-width [任意] PDF の表における幅の長さを与える。

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

[マニュアル XML 基本タグ]/table/ tr (9.2.10 節)/td

■ 説明

テーブルの１列データ。HTML のテーブルと同じように、

```
<table>
    <tr>
        <td>....</td>
        <td>....</td>
        .....
    </tr>
    .....
</table>
```

という形式になっている。

pdf-width は、TeX における表の幅指定文字列を与えるものである。省略すると TeX のデフォルトとなる。例として、

p3cm

とすると、表の１列の幅は 3cm となる。

l

と書くと一つのセルの中野文字が左へ寄せられる。

r

と書くと一つのセルの中野文字が右へ寄せられる。詳しくは TeX のマニュアルを参照されたい。

■ 参考

■ バグ

9.2.12 example

■ プロトタイプ

<example> [マニュアル文章形式] </example>

■ 内部要素

[マニュアル文章形式] (9 節)

■ 属性

■ 所属エージェント

exl manual.xl

■ 要素パス表現

[マニュアル XML 基本タグ] (8 節)/example

■ 説明

例示データを書く。PDF では、quote 環境に入り、インデントされる。HTML では pre 環境に入りインデントされる。

■ 参考

■ バグ

第10章　マニュアル環境のスクリプト

10.1　概要

マニュアル環境で利用可能なスクリプトは二つある。 mmake (10.4.1 節) と、 make.html.sh (10.4.2 節) である。いずれも、gbs/doc/xml にある。

10.2　このリファレンスのために必要な知識

マニュアル環境は POSIX 系のコマンドラインから利用するので、シェルの簡単な操作が出来ること。

10.3　このリファレンスで前提としているシステム用件

本スクリプト群は、GLOBALBASE の開発環境がそろっていることが前提条件です。sourceforge.jp の CVS からコミットしたワークエリアに対する操作を説明しています。sourceforge.jp からの CVS の取得方法等については、「GLOBALBASE の開発 [**?**]」を参照してください。

10.4 スクリプト

10.4.1 mmake

■ プロトタイプ

mmake

mmake PDF=on

mmake PDF=off

■ 引数

PDF on/off PDF 機能を on/off する。

■ 環境

■ 説明

マニュアル環境において、書き換えた文書の、PDF,HTML への変換を行う。引数 PDF=off をつけると、PDF の出力を止めることが出来る。通常 PDF 出力は TeX の環境を使う。TeX の環境が整っていない環境では、PDF=off を選択すると、エラー等を発生せずにマニュアル環境を利用することが出来る。

■ 戻り値

通常終了。

■ エラー

■ 参考

makefile

■ バグ

10.4.2 make.html.sh

■ プロトタイプ

./make.html.sh

■ 引数

■ 環境

■ 説明

コンパイル終了後、HTML のページから、CVS などの制御ディレクトリ／ファイルを取り除き、HTML 公開用ディレクトリを作成する。

■ 戻り値

gbs/doc/xml/man に保存された man という名前のディレクトリが公開用のディレクトリである。

■ エラー

■ 参考

■ バグ

関連図書

[1] 森洋久. LANDSCAPE スタートアップ・マニュアル. GLOBALBASE PROJECT, 2006.

[2] 森洋久. マニュアル環境とマニュアルの書き方. GLOBALBASE PROJECT, 2006.

[3] 森洋久. xl(standard) エージェント・リファレンス・マニュアル. GLOBALBASE PROJECT, 2006.

履歴

1. **日時:** 2007-11-04
   マニュアル生成。(2007-11-04 版)
2. **日時:** 2006-08-16
   著者: 森　洋久　**反映されたバージョン:** ver.B.b11.02
   このマニュアルを作成
3. **日時:** 2006-08-20
   著者: 森　洋久　**反映されたバージョン:** ver.B.b11.02
   このマニュアルの最初の記述の完了。
4. **日時:** 2006-09-10
   著者: 森　洋久　**反映されたバージョン:** ver.B.b12
   tracking の新機能 report-type="function" の記述を追加。
5. **日時:** 2006-09-11
   著者: 森　洋久　**反映されたバージョン:** ver.B.b12
   tracking の新機能 report-type="faq" の記述を追加。
6. **日時:** 2006-11-02
   著者: 森　洋久　**反映されたバージョン:** ver.B.b13.02
   tracking の新機能 report-type="tuning" の記述を追加。